

3 宇田競落漁区問題

昭和4年4月6日 在ウラジオストック渡辺総領事より
田中外務大臣宛(電報)

四月五日競売の結果について

付記一 昭和四年四月六日付在ウラジオストック渡辺

総領事より田中外務大臣宛第八五号(電報)

入札の経過および結果

二 昭和四年四月七日付在ウラジオストック渡辺

総領事より田中外務大臣宛第九五号(電報)

入札の経過および結果詳報

ウラジオストック 4月6日前発

本 省 4月6日後着

第八四号

往電第八一號競売定刻開始邦人ハ予定通り露人ハ五通入札
午後一時締切競売ノ結果ハ六日午後三時発表ノ旨宣言シタ
ルカ右締切数分前露人「コルサコフ」ナルモノ神戸 K. Uda
商会ノ委任ニ依リ七十九個所ノ日魯關係旧漁区ニ対シ借区
料約三百万留ニテ入札シタル為一同大恐慌ヲ來シ一般結果
読上ケノ模様ニ依レハ露人側ハ十五日競売入札書九通約三
十個所本日五通ノ部約二十個所アリタル為我当業者ハ前記

四 日ノ漁業問題

第ナルモ之ハ貴国内部ノコト故競売委員トシテハ致方ナシ
ト語リタルニ依リ本官ハ宇田ノ身許不明ニシテ組合員以外
ノモノニシテ何等準備モナク實際經營不能ナル入札ヲ為ス
ハ裏面ニ如何ナル魂胆アルヤハ知ラサルモ兎ニ角本件ハ我
國現在ノ組織ヲ破壊シ國論ヲ沸騰シ此ノ上兩國間ノ紛議ヲ
拡大スルモノト認ムルニ付何レ政府ヨリ相当処置アルヘキ
モ夫レ迄ハ貴官カ本人ノ入札効力発表ヲ見合セラルルコト
ヲ期待スト述ヘタル処「マ」ハ充分考慮審議スヘキ旨答ヘ
中央ヘ請訓ノ意ヲ洩ラシ且本人ノ提出ノ書類ハ明日日本官ノ
一覽ニ供スヘキ旨語り居タリ就テハ本件ニ関シ本官トシテ
此ノ上如何取計フヘキヤ大至急御回示アリタク右報告旁請
訓ス

尚競売ノ結果トシテ邦人中不落漁区數個所アル模様ナルモ
午後八時口頭読上ケル終リタル迄ニテ目下詳細ハ取調中ニ
付追テ詳報スヘキモ右不取敢

右宇田ハ神戸警察ノ証明ニ基ク同地勞農領事館調製ノ対
「コルサコフ」委任狀ト神戸「ダリバンク」取組ニ係ル露
貨百五十万留ニ対スル円払込ノ手形トテ当地「ダリバン
ク」宛發送シ居ル由ニテ本件關係者兵庫縣民児島侃二ハ本

宇田商会ノ出動ト共ニ非常ニ激昂シ蘇側ノ背信行為ト為シ
之カ善後策ニ関シ當館ニ申出アリタルニ依リ一同協議ノ末
本官ヨリ右事実カ「トロヤノフスキー」「カラハン」並ニ極
東當局ノ証言(「ザウエレニエ」)ヲ裏切ルモノト思ハレ
スル上ハ左ナキタニ紛糾セル漁業問題ヲ一層悪化シ一ハ我
國論ヲ沸騰セシメ累ヲ兩國政府ニ及ホス重大ナル結果ヲ齎
ス虞アルニ付競売ノ結果公表前篤ト考慮アルヲ期待スト申
入レタル処「マモノフ」ハ「ゲイツマン」ト打合ノ結果ト
見ヘ右ニ対シ露人側入札ニ関スル限り當局ハ毫モ從來ノ証
言ニ背クモノニアラス即チ數字末詳ナルモ露國個人ハ約十
六個所ヲ落札セルモノ内二個所ハ邦人旧漁区ナルヲ以テ該二
漁区ト共ニ新漁区モ希望ニ依リ讓渡ニ尽力スヘシ

尚「コオペラチーブ」ハ二月二十八日ノ競売ニ取残セル十
万布度ニ達セサリシ分トシテ入札シタルモ日本人ノ為不落
トナレリ尤モ貴說宇田商会ノ入札ニ関シテハ正規ノ手續ニ
依リ入札シ居ルニ付固ヨリ受付ケアルモ蘇側トシテハ余リ
ノ高値ニ入札シアリ身許ニ関シ貴方ニ聞質サムトシタル次

年二月二十八日日本省許可ノ旅券ニ査証ヲ受ケ当地ニ潜伏中
ノ模様ナリ

莫斯科、哈付ヘ転電セリ

(付記一)

ウラジオストック 4月6日前発
本 省 4月6日後着

第八五号

組合長ヘ佐々木ヨリ

競売ハ午前十一時開始午後一時入札締切ヲナシ十分間休憩
直ニ開封一々朗読午後五時二分終ル三十分休憩後結果ヲ報
告午後七時閉会セリ其ノ経過及結果左ノ通

入札數ハ合計百三十封ニシテ其ノ内露人ノ分ハ去ル十五日
入レタル九封本日新ニ五封其ノ他身元不明ノ邦人宇田某ノ
委任代理トシテ露人「コルサコフ」ナル一封筒ノ入札アリ
開封ノ結果前記露人ノ入札漁区數三十個ニシテ内訳邦人現
有漁区七個所邦人關係新漁区十八個所露人現有漁区一個所
其ノ他ノ新漁区四個所計三十個所ヲ競落セリ以上ノ結果ニ
依レハ我等出発ノ際承リタル「トロヤノフスキー」ノ言明
ニ依レハ十五日入レアル九封ハ九個ノ漁区ニシテ其ノ内旧

漁区中一個又ハ二個ニ過キサレヘシトノ言ハ根底ヨリ裏切ラレ殊ニ二月二十八日ノ落札漁区ヲ以テ露側ハ滿腹シ此ノ上消化ノカナシトテ我方ニ保障の安心ヲ与ヘラレタル言質ト甚シキ相異アリタルニ依リ右ニ付渡邊總領事ハ不敢露側ニ對シ敵重ナル注意ヲ喚起シタル処今回落札シタル新旧漁区中日本漁業者ノ要望アルモノニ對シ相當讓渡為サシムル事ニ尽力シ結局「トロヤノフスキー」ノ前言ノ通トスル意思アル事ノ言明ヲ得タリ本件ハ何レ組合員ノ意見ヲ求メ円満ニ解決スル考ナリ次ニ本邦(人)ト称スル「ウダ」某ノ入札漁区數ハ七十九個ニシテ内一個「九二ジエ」不落アリタル外七十八個所競落セリ而シテ此ノ内西出一七八(四一四六留)外全部日魯会社ノ蟹場ヲ含ム鮭鱒現有漁区ニシテ此ノ競落價格二百九十五萬六千六百四留ナリ此ノ内最高十一萬五千五百五十留「二二九」十萬五千五百五十留「二〇二」ヲ筆頭ニ九萬留大多數アリ以上共謀的反逆者ハ締切時間ノ二十分前ニ入札シタルモノニシテ突嗟ノ場合驚愕シタルカ唯今迄ノ調査ニ依レハ兒島侃ニカ来浦中ナルコトヲ確カメタリ尚保証金ニ使用シタル「ダリバンク」小切手百五十萬留ハ神戸同支店ヲ經由シ旅券ハ神戸警察署ノ証明ヲ受

以上不取敢報告ス

莫斯科、哈府へ転電セリ

(付記二)

ウラジオストック 4月7日後發
本 省 4月8日前着

第九五号

水産組合長へ佐々木ヨリ

一、競売ノ結果ハ前電報告ノ通ナル処全般ニ亘リ競落不落並奪取漁区數ニ多數變化生スルモノアリト思ハル即チ普通通ナレハ翌日六日午後三時迄ニ明細ニ確認發表セラルヘキ筈ナルモ宇田ノ不正入札モアリ即日時機ヲ誤ラス渡邊總領事ヨリ露側ニ警告ヲ發シタル為其ノ意ヲ了シ發表ヲ九日午後三時迄延期シタリ故ニ其ノ上確定セラルルニ付其ノ結果ハ更メテ報告ス

二、右結果ニ依リ普通ニ奪取セラレタルモノ及不落漁区等ノ讓渡又ハ再競売ニ関スル手續及其ノ内容等ハ出先官憲ト慎重協議ノ上機宜ノ処置ニ出ツル考ナリ
三、去ル四日午前十時過突然總領事ヲ通シテ外交全權「ゲイツマン」「マモノフ」「ゴロフスコイ」三氏カ主人側

ケ兵庫県ヨリ下付セラレタルモノノ如ク露人「コルサコフ」ニ對スル委任登錄ハ神戸露國領事ナラン

前記⁽²⁾ノ如ク乱暴極マル價格ヲ以テ日魯会社ノ旧漁区ノ殆ト全部ヲ奪取シタルハ実ニ有史以來ノ不祥事ニシテ露領ニ於ケル我水産業政策ノ基礎並ニ漁業條約ニ依ル我權益ハ根底ヨリ蹂躪セラレタルモノトシテ痛嘆ニ堪ヘス

以上ノ事實ニ直面シテ渡邊總領事ハ即刻露側ニ對シ合理的ニ説明シ善後策ニ付反省ヲ喚起シ熱心御尽力中ナリ

委細ハ本省ヨリ承リタク此ノ際組合ハ益々一致結束セラレ對外的ヨリモ寧ロ一味徒輩カ舉行シタル此ノ重大ナル事態ニ付国内法ニ依リ速ニ敵重ナル措置ニ出テラレムコトヲ切望ス

次ニ組合員入札漁区數ハ二百七十六個ニシテ内競落漁区百六十五個所不落二十一個所露人ニ奪取セラレタル漁区十二個所其ノ他組合員外ノ邦人ニ奪取セラレタル分七十八個所アリ

次ニ二月二十八日露人ノ競落シタル漁区ニ関シテハ一同一致ノ申合ニ依リ直接間接ヲ問ハス讓渡賣買ノ交渉ヲ避ケ本件ハ一ニ我政府ノ命ヲ俟ツコトトシアリ

トシテ「ゾロトイ」劇場ニ於テ来浦中ノ日本漁業者全員ヲ觀劇ニ招待シタリ聴ク処ニ依レハ露側カスノ如キ催ハ未曾有ノ事ニテ彼等ハ虚心坦懷ニ解シ折角ノ好意ニ応スルハ我大国民ノ襟度ナリトシテ快諾シ一同出席シタルニ主人側ハ好意ヲ單メテ斡旋歓待セラレ相互ノ友好ヲ重ねタル事實ヨリ之ハ參考トシテ報告ス

四、五日競売ニ臨ムニ当リ余ハ漁業者ヲ代表シ大要左ノ書面ヲ「マモノフ」「ゴロフスコイ」宛提出シ置キタリ

⁽²⁾「予テ貴下ノ諒解ヲ得タル漁区貸付条件ノ修正及漁獲標準高増加問題ノ許容ニ関シテハ競売執行後迅速ニ日本漁業者ノ為有利ニ解決セラレ以テ兩國親善關係ニ資スヘキ誠意ヲ示サレンコトヲ懇請ス日本漁業者代表等ハ前記標準高増加問題ハ必ス競売直後解決セラルルコトト深ク信用シ以テ競売ニ参加スルモノニ候」云々

右ハ去ル四日夜ハ平塚氏ト同行両氏ヲ訪問シタル際先方ヨリ進シテ此ノ際日本漁業者カ要求スル事項アラハ何ナリトモ協議ニ応スヘキ用意アル故ニ競売前夜間ニテモ隔意ナク懇談ストノコトナリシモ當時到着早々ト云ヒ時間ノ關係上競売後ニセラレ度シト述ヘ置キタルモノヲ為念

右形式ヲ採リタル次第ナリ

五、今回我組合員ハ条約ノ法則ノミヲ基準トスルコトナク
 一九二七年度ノ借区料ニ対シ大体一割以上十五割内外ヲ
 加算シテ入札セリ不落漁区ハ大部分新漁区ニシテ基準不
 明ナリシモノ多ク最低価格ハ大体穩当ナリシモノノ如シ
 六、仄聞スル処ニ依レハ宇田貫一郎ナルモノハ中山説太郎
 ノ秘書タリシモノニテ大阪天王寺区ニ居住シ同警察署ノ
 証明ヲ受ケ居ル由兎島侃ニハ全權ノ委任状ヲ所持シ来リ
 居リ「コルサコフ」ナル露人ハ単ニ競売入札ニ参加シ契
 約手續等ノ部分的委任ナル由又彼カ提出ノ「ダリバン
 ク」小切手百五十万留ハ神戸「ダリバンク」支店ヨリ送
 金為替ノ手續ヲ得タルモノナル由

七、我等ノ推定ニ依レハ(一)宇田カ其ノ實力ニ於テ斯カル大
 事業ヲ經營出来ルモノニアラサルハ勿論此ノ切迫セル時
 期ニ際シ何等ノ準備ナク徒ラニ不当極マル価格ヲ以テ入
 札スルカ如キ(二)巨額ノ留ヲ特ニ神戸「ダリバンク」ヲ經
 テ送金セリト称スル如キハ常識上信用シ得ス其ノ間必
 スヤ某方面ト通謀シアルモノト想像セサルヲ得ス要スル
 ニ宇田ノ共謀ハ徹頭徹尾不正行為ニ依リ我々カ正当ニ真

192 昭和4年4月7日

田中外務大臣より
在ウラジオストック渡辺總領事宛
(電報)

入札の不当性につき競売当局に申入れ方訓令

本省 4月7日後発

第五〇号(至急)

貴電第八四号ニ関シ

邦人現有漁区七十八ヶ所ニ対シ法外ナル価格ヲ以テ入札シ
 タル宇田某ノ身許ハ当方ニ於テモ不明ナルノミナラス其ノ
 後援者乃至資本系統モ詳カナラス從テ實際經營ノ能否モ甚
 タ疑ハシキ所貴電第八五号佐々木代表報告ノ如キ入札価格
 ハ漁区ノ価値若ハ經營ノ採算ヲ無視シタルモノニシテ累々
 将来ニ貽シ二十有余年間培ヒ来レル我露領水産業ノ經濟上
 ノ根底ヲ覆滅セントスルモノト謂フヘク右ニ関シ貴官カ五
 日競売ノ直後「マモノフ」ニ対シ為サレタル嚴重ナル御
 申入ハ機宜ヲ得タル措置ト認メラル就テハ漁期ノ關係上急
 速善後策ヲ講スルノ要アルニ鑑ミ貴官ハ貴地競売当局ニ対
 シ前記法外極マレル入札価格ヲ指摘セラレ此ノ如キ入札ノ
 許容ハ徒ラニ投機ヲ奨励スルノ結果ヲ招来シ露領水産業ノ
 着実ナル発達ヲ顧念シ投機ヲ禁遏セムトスル彼我当局ノ趣

面目ニ一致共力シテ条約上國家ノ有スル權利ヲ有利ニ行
 使シ露領ニ於ケル産業開發ニ専念努力セント欲シ居ル善
 良ナル日本臣民ニ対シ今回ノ宇田ノ暴挙ハ何等事業經營
 ノ意思ナク唯投機的ニ悪用シ之ニ依リ我産業經濟界ノ安
 寧ヲ攪乱シ延ヒテハ漁業条約ノ精神ヲ没却シ且貴重ナル
 權益ヲ無価値ニ陥ルルモノニシテ非國民ノ行為為歴然タル
 モノアリト信シ実ニ憤慨ニ堪ヘス(在浦) 組合員一同ハ結
 束シテ慷慨悲憤ノ決議ヲ為シ連袂帰朝ノ意思ヲ示シタル
 モ出先キ官憲ノ懇切ナル訓示ニ依リ暫ラク隱忍自重シ時
 局ノ推移ニ注視シツツアリ宇田ノ採リタル前後ノ行為ヲ
 推測スルニ惡謀ニシテ延ヒテハ國際關係惡化ヲ起スカ如
 キ疑ナキニアラサルモ漁期切迫セル今日此ノ不祥事ニ直
 面シテ法律的迂遠ナル措置ニ出ツルヨリモ此ノ際先決問
 題トシテ我政府ニ篤ト陳情シ対内的ニハ政治問題トシテ
 処断シ其ノ意義ヲ以テ対外交ニ運用シ以テ速ニ機宜ノ措
 置ニ出テラレンコトヲ切望ス

終リニ臨ミ当地出先キ官憲ノ終始最善ノ努力ヲ感激シツ
 ツアリ

193 昭和4年4月8日

在ウラジオストック渡辺總領事より
田中外務大臣宛(電報)

宇田問題解決策につきソ連側代表との会談
について

ウラジオストック 4月8日後発
本省 4月9日前着

第九九号

往電第九七号ニ関シ

本八日午後二時「マモノフ」ト会见宇田入札否認並ニ二番
 札確認要望ニ関スル文書ノ趣旨ヲ敷衍シ御訓令ノ趣ヲ篤ト
 懇談此ノ際「マ」ノ職權ニ依リ解決方要望シタル処貴意諒
 トスルモ莫斯科ヨリ否認ノ訓令ナキヲ以テ合法ニ提出セル
 宇田ノ申告ヲ此ノ儘否認スルハ責任上不可能故熟議ノ上當

地ノ事情ヲ客観的ニ報告シ貴信ノ趣及私見ヲ具シ経伺中ニ付何分ノ沙汰アル迄俟タレ度シ尤モ競売結果ノ発表延期ニ関シテハ該結果ハ既ニ五日読ミ上ケタルモノニテ公示ヲ此ノ儘猶予スルハ規定上不可能ニ付一応揭示スヘキモ既ニ外務機関ニ移サレアレハ右揭示ニ拘ラス不日貴意通り恐ラク解決スヘケレハ諒トセラレ度シ我方トシテハ実ハ本日辺リ未解決問題ヲ片付ケ当業者ト競売成立ヲ祝シ度カリシニ宇田出動ノ為其ノ意ヲ果サス極執委員長カ莫斯科出張ノ為子代理トナリ哈府帰任ヲ要スルニ拘ラス当地滞在ヲ余儀ナクセラレタルヲ惜シム云々ト語りタルニ依リ本官ハ再三不正行動者ノ為ニ左ナキタニ遅レタル競売力頓挫ヲ来シ貴方カ本件即決ニ遲疑セラルル為事態一層悪化シ当業者ハ固ヨリ我国論モ終ニ貴方ノ態度ヲ疑フニ至ルナキヤヲ虞ル旨且一旦公表後更ニ取消スハ面白カラサルヘキ旨繰返シタルモ手続上已ムナキ旨ヲ述ヘタル後「ゲイツマン」方ニ赴キタル模様ナリシカ午後三時漁獵庁ニ館員ヲ派シタル処競売結果ハ一時揭示シ居タルモ午後三時半退庁時間ト理由ニテ之ヲ撤回シタリ尚右会談ノ際「マ」ハ本官ノ問ニ対シ宇田ノ提示金ニ関シテハ最初疑アリタル為「ダリバンク」ニ確カ

(欄外記入)

(付記)

一、五日ノ競売ニ於テ露人ニ入札ヲ委任シタル K. UDA 商会主ハ島徳藏ノ直系タル宇田貫一郎ニシテ大阪府知事ヨリノ報告ニ依ルモ同人カ島徳藏、中山説太郎等ト通謀ノ上ノ策動ニシテ右ハ八日宇田自身当省並農林省ニ出頭シ申立タル所ト合致シ居レル処前記三名ハ孰レモ曾テ露領水産業ニ経験ヲ有シ今次ノ計画モ数月前ヨリ秘密裡ニ行ハレ今後金策サヘ付ケハ五ヶ年ニ亘ル競落漁区経営ノ能力無シトハ謂ヒ難ク從而今回ノ入札モ価格ハ法外ナリトスルモ単純ニ投機ノミヲ目的トスルモノトハ今日ノ処俄カニ速断シ難シ

二、本件突発スルヤ各種ノ流言蜚語行ハレ中ニハ「ソ」側ニ於テ内々援助ノ形跡アリトスラ伝フルモノモアリタル所入札ノ為浦潮ニ赴キタル児島ノ旅券ハ正式ノ手続ニ依リ東京府知事ノ発給シタルモノニシテ又入札保証金ハ神戸極東銀行支店經由浦潮ニ送金セラレ居ルニ付今日ノ処何等露側通謀ノ事実ヲ認め難ク從テ本件ハ全然国内問題ニシテ見様ニ依リテハ日魯会社ヲ中心トスル新旧勢力ノ争トモ云ヒ得ヘク宇田入札漁区ノ処分問題モ前陳ノ成行

メタル処神戸同行支店ハ宇田ヨリ円貨百万数千円ト残余ハ有価証券様ノモノヲ私ヒ込ミアルコトヲ確カメタル旨語り居タリ右ノ如ク本件ハ遺憾ナカラ中央御交渉ニ俟ツ外ナキニ至レリ
莫斯科及哈府へ転電セリ

194 昭和4年4月9日 田中外務大臣より
在ウラジオオストック渡辺総領事宛
(電報)

宇田問題につき静観するよう注意喚起

付記 昭和四年四月十三日通商局第二課起案電報案
宇田貫一郎等について

本省 4月9日前発

(館長符号)

極秘親展

通商局長ヨリ左ノ通

宇田商会ノ正体漸ク八日ニ至リ判明ス内地ニ於ケル種々複雑セル事情伏在スルモノノ如シ官憲トシテ深入リハ今ノ処危険ナルニ付「ソ」側ノ出様如何ヲ俟ツ外ナシ御注意アリタシ右ハ貴官限ノ御含迄

判明シタル今日ニ於テハ我方ヨリ露側ニ対シ失効又ハ取消ヲ迫ルヘキ筋合ニハアラスシテ寧ロ先ツ国内的ニ解決策ヲ講スル外ナキ次第ナリ

三、尤モ露水組合員ニ非サル者ノ入札ニ依リ組合ノ統制ニ動搖ヲ来シタルハ対露邦人企業統一保護ノ見地ヨリモ又「ソ」側漁業ノ進出ニ対スル對抗策ノ上ヨリモ甚遺憾ニ堪ヘサル次第ナルカ組合員外ノ入札及営業ヲ徹底的ニ取締ル法規ノ根柢乏シク差当り手ノ下シ様無キモノノ如シ但シ今回ノ事件ニ鑑ミ現行法規ニ改正ヲ加ヘ之カ欠陥ヲ補正シ再ヒ斯ル醜態ヲ繰返ササル様攻究ヲ要スルハ言フ迄モ無シ

四、茲ニ最モ憂慮スヘキハ今回宇田ノ入札シタル法外ナル高値カ一般の標準トナリ差当り工場契約漁区ノ借区料之ニ依リテ算定セラレ折角十年間ノ権利ヲ確保シ乍ラ採算上之カ経営ヲ困難ナラシムルカ如キ又結局ニ於テ右以外ノ漁区ニ付テモ契約更新ノ際自然貸付価格ノ釣上行ハレ多年培ヒ来レル我露領水産業ノ経済的破滅ヲ誘致スルノ虞アルコト是ナリ從テ右価格ニ就テハ何等カノ是正ノ方策ナキヤニ付目下攻究中ナリ或ハ追テ宇田問題ノ国内的

解決ヲ俟チタル上申進スルコトアルヘシ右予メ御含置アリ度シ

在哈府、浦潮総領事へ転電アリタシ

編注 付記電報案は四月十三日通商局第二課で起草されたが、森恪「政務次官ノ注意ニ依リ發電暫ク見合ニ決定」(欄外記入)となり、發電中止となった。

195 昭和4年5月7日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛(電報)

宇田問題解決策試案に対するソ連側の対応振

り照会

本省 5月7日後発

第一三六号(至急)

武富通商局長ヨリ左ノ通

宇田入札問題其後ノ経過ハ新聞通信等ニテ大体御想像ノ義ト拝察セラルル所其後民間ニ於テ島派日魯間ノ妥協ヲ策スル者出来タル為政府トシテハ右妥協ノ結果ヲ俟チオリタル次第ナルカ両派ノ間ニハ複雑ナル事情アルモノノ如ク虚実相半シ妥協ノ進行ノ真相未タ判明セス唯時日ノ経過ト共ニ両派間ノ妥協気分漸次濃厚トナリ島派モ今後ノ経営難ト内

使ト折衝スルモ結局同大使ハ本国ニ電照スル外特別ノ意見モナキ義ト察セラルルニ付前記諸点ニ関スル貴下ノ御意見及前記手続中(一)合意ニ依ル失効ニ付「ソ」側ハ果シテ容易ニ同意ヲ与フヘキヤ又同意ヲ与フトセハ右ノ場合島派ノ負担スヘキ補償金額(二)失効後今一度ノ競売要求ニ対シ「ソ」側ニ於テ直ニ応諾可能ナリヤ等ノ御見込又若シ適当ノ方法アラハ貴地当局ニ対シ貴官限ノ意見トシテ非公式ニ御問合ノ上小生迄結果御回電ヲ得度シ以上ハ今日ノ処公電ヲ以テスル程事進行シ居ラサルモ何レモ今後関係者トノ接触上大体ノ見当ナリトモ心得置カサレハ漁季モ切迫シタル今日関係者ヲ指導スル上ニモ困難ヲ感スルモノナルニ付御懇意ノ問柄ニ任セ貴下ヲ煩ハス次第ナリ右御含ノ上何分ノ御示教ヲ待ツ

尚浦潮ニ於テ「マモ一ノフ」ハ四月十五日渡辺総領事ニ対シ宇田カ漁区放棄ノ場合之ヲ二番札者ニ貸下クルコトハ困難ナルモ競売ニ依ル貸下ハ可能ナル旨内話シタル趣ナリ

196 昭和4年5月10日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田問題解決につきソ連側当局者との懇談に

地各方面ニ於ケル反対気分トノ為日魯側ヨリ或種利益ノ提供ヲ得テ競落漁区ノ放棄ヲ肯セムトスル風アルモ日魯側ニテハ放棄漁区ノ帰属明ナラサル限利益提供ニモ難色アリテ尚未タ対峙ノ状態ナリト観ルヘク結局放棄漁区ノ帰属カ問題解決ノ鍵トナリオル現状ナルモノノ如シ我方トシテハ落札問題発生当時ヨリ関係者側ヨリ二番札ヘノ落札方及宇田入札価格ノ引下方等ニ関スル対露交渉ノ希望アリタルモ宇田ノ身許判明シタル後ハ一切之等ノ要求ヲ却ケ可成不偏不党ノ態度ヲ持シテ国内的解決ノ進行ヲ促シオリタルカ妥協ノ進行ニ伴ヒ漁区放棄ノ形式及放棄後ノ帰属問題ニ付今ヤ外務省トシテノ態度ヲ決スヘキ必要ニ迫ラレオルモノト考ヘラルル所私見ニ依レハ(一)放棄ノ形式トシテハ今日ニ於テハ漁業庁ト宇田トノ間ノ合意ニ依ル契約ノ失効(貸付条件第二十条)以外良策ナカルヘク(二)七十八漁区ノ帰属問題ハ今更ニ二番札又ハ無競売貸下ヲ主張シ難ク又主張スルモ「ソ」側ノ容諾不可能ナルヘク従テ本年度漁季中ニ本邦人ノ手ニ回収セムカ為ニハ至急今一度競売ヲ請求シ競争入札ニ依ル外ナント思考セラル就テハ我方ノ態度決定ニ先チ予メ其辺ノ手続及「ソ」側当局ノ意向等承知シ置キタキモ「ト」大

関し報告

モスクワ 5月10日後発
本省 5月12日前着

第一九四号

武富局長へ

「コルチャ」及「カズロフスキー」ニ別々ニ懇談ヲ試ミタ

一、宇田ハ既ニ上半期分借区料及抵代税ヲ納付シ借区契約ヲ締結セル趣ナルカ右ヲ事実トシテ考フル事トス宇田カ権利ヲ放棄スル場合其ノ形式トシテハ貴見ノ通貸下ケ条件第二十条ノイニ依ルヲ最得策トスヘシ然シ蘇側カ果シテ合意的契約解除ニ応スヘキヤ否ヤ此ノ点ニ付「カ」ハ宇田一派ニ於テ声明スルカ如ク充分採算可能ナリトノ議論アルニ鑑ミ仮ニ同派カ投機ノ目的ヲ以テ落札セリトノ批評アルニセヨ既ニ契約ヲ締結シタル以上ハ今後實際經營シタル結果ヲ示シ經營不能ヲ証明セサル限り蘇側トシテハ甚タ有利ナル契約ノ合意的解除ニ応セサルヘク又応スルノ理由モ無キカ如シ尚宇田ノ落札カ果シテ投機ノ目的ニ出テ經營ノ意思ナキ場合ハ契約ハ放棄セララル事

ハ云フ迄モ無キ処其ノ場合蘇側ニテモ借区料（即チ最低価格ノ意）ノ減額ヲ考量スルナルヘシト述ヘタルカ「コ」ハ理論トシテハ日本側ニ不利ナリ然シ蘇側ニ対シ其ノ実情ヲ披瀝シ懇談のニ折衝セラルルニ於テハ或ハ蘇側ニテ考量スルナルヘシ即チ従来日本側特ニ日魯及組合ハ蘇側ヲ敵視スルカ如キ言動アリシ如ク為ニ蘇側ノ反感ヲ買ヒ居レリ此ノ際協調的態度ヲ示サルル事肝要ナルト共ニ宇田ヨリハ蘇側ニ対シ経営ヲ断念スル旨ヲ申入レ日魯ヨリハ合理的の系数ヲ指示シテ宇田落札価格ヨリ安く而モ従来日魯ノ支払ヘルモノヨリモ高キ借区料ヲ提示セラレ宇田日魯共同シテ蘇側ノ好意ニ訴ヘラルル事一方方法ト考フ尤モ右ハ本年一年限りノ弁法ニシテ来年度ハ宇田關係ノ七十八漁区ハ総テ競売ニ付スヘキ建前トスルヲ要スヘシ何トナレハ宇田關係ノモノハ「コーベラチーフ」希望ノモノモアルヲ以テナリ次ニ仮ニ蘇側カ合意の解除ニ応スル場合合理的の云ヘハ一、宇田ハ既ニ支払済ミノ金額ヲ失フヘシ（但シ貸下条件第十八条ノ損害賠償ヲ免ル）二、漁区ノ所属ニ付テハ二番札ニ貸下クヘキ規定モ無ク又本年ハ既ニ再競売モ済ミタルニ鑑ミ条約ノ規定ニ

ルヘク口添ヘヲ為スニ於テハ其ノ努力如何ニ依リテハ右可能性増スヘシ

三、⁽²⁾ 假ニ蘇側カ合意の解除ニ応セル場合ニ関シ

a 漁区ノ所属ニ付本年度更ニ競売ヲ行フコトハ假令

「マモノフ」ノ渡辺ニ述ヘタル言アリトスルモ余リニ条約ノ規定ニ副ハサルノミナラス一片ノ形式ニ終ルヲ以テ蘇側ニテハ同意ヲ難スヘク寧ロ「コ」ノ言ノ如ク本年一年限りノ便法トシテ二番札ヲ入レタル日魯ニ特別貸下ヲ為サシムル方容易ナリト考フ又仮リニ競売ヲ行ハシムルコトトナリタリトスルモ其ノ最低価格ハ矢張り宇田落札ノ価格ヲ標準トセサルヲ得サルニ依リ之カ減額殊ニ如何ナル程度迄減額スヘキヤノ点ニ付合意ヲ得ルコトハ甚タ困難ナリト認ム（尤モ明年ノ競売ニ於テハ一、本年度ノ協定価格カ最低価格トナルヘク二、本年度協定ナラサルトキハ一応宇田落札価格カ最低価格トナルモ再競売ニハ之ヲ減額セシメ得ルノ途アリ宇田カ一方のニ契約破棄ノ場合ハ別トス）

b 日魯ニ特別貸下ノ形式ニ付テハ条約第二条第二項ニ依ル政府間ノ合意トシ又来年度競売ニ付スヘキ点ハ右

依リ明年二月ノ競売ニテ決定スルノ外無キ事トナル然シ契約解除ニ付理論ヲ離レタル商議ヲ為ス以上其ノ条件ニ付テモ亦理論ヲ離レタル親善の解決案無キニ非サルヘシ例ヘハ本年度ハ日魯カ経営スル事トシ宇田支払済ミノ額ハ是ヲ日魯カ支払フヘキ額ノ一部ニ充当スルト云フカ如キ妥協ノ方法モ無キニ非サルヘシ云々ト述ヘタリ

二、惟フニ「コ」ハ本官カ佐々木ノ問？ニ対シ日魯漁業合理的の係数ヲ示シ誠意ヲ以テ商議スルニ於テハ少クトモ外務部内ノ多数ハ充分好意ヲ以テ之ヲ支持スルナルヘク本年限りノ便法ノ点及来年度ニ改メテ競売ニ付スヘキ点ニ関スル形式等ニ付テハ本官ニ於テ最適當ノモノヲ發見シ得ヘシト答ヘタリト雖合意の解除ノ申込ヲ受クヘキ蘇側トシテハ申込ノ動機ニ付大体一、官憲ノ圧迫二、輿論ノ反対三、採算ノ困難等ノ内何レカ重キヲ為スヤ等仔細ニ研究スヘク利ニ狡キ蘇側果シテ「コ」ノ言ノ如ク雅量ヲ有スルヤ否ヤ甚タ疑問ナリ從テ蘇側ヲシテ合意の解除而モ借区料ノ低下ニ応セシムル可能性ハ僅カニ一期位ト見込マサルヲ得ス然シ一方日魯宇田共同シテ駐日大使ノ好意の斡旋ニ訴ヘ他方政府当局ニ於テ大局上ノ見地ヨリ然

合意ノ条件トシ簡單ナル「ノート」ノ交換ニテ可ナラシ

c 借区料ニ付テハ協定ニ依ルヘク唯蘇側従来ノ借区料カ余リニ安キニ失スルコトヲ確信シ居ルニ付日魯入札價格ニテハ妥協困難ナルヘク從テ蘇側個人ノ落札價格ヲ標準トシテ算出シタルカ又ハ便宜？宇田落札價格ト日魯入札價格トノ中間ヲトルカノ方法アルヘシ此ノ点ニ付テハ既ニ御氣付ノ如ク若シ宇田カ經營セス日魯ノ工場漁区ノ借区料ハ本年ヨリ宇田落札價格ヲ標準トシテ算出セラルヘキニ付相當奮發シテ可ナル訳ナリ

d 宇田ノ失フヘキ金額ニ付テモ亦協定ニ依ル外ナキハ前記ノ通ナリ

四、合意の解除以外ノ場合ノ利害得失ニ付テハ既ニ御研究済ト考フルニ付強説ヲ避クヘキモ宇田落札價格カ不当ニ高キニ失スルト為スノ断言ヲ真ナリトシ一段借料ノ低下ヲ目的トスル立場ヨリ考フレハ此ノ際宇田ヲシテ權利ヲ放棄セシメ其ノ損失ハ日魯ニテ負担セシムルニ如クハナシ宇田經營ノ場合ハ前記三ノcノ末段ノ如ク日魯ハ多年ニ亘リ高価ナル借料ノ支払ヲ余儀ナクセラルヘキニ付日

魯ニシテモ相当考量ノ余地アリト評シ得ヘシ併シ右カ出来サル相談ナリトセハ此ノ際兎ニ角合意の解除ニ付最善ノ努力ヲ試ミルノ外ナカラシ

五、宇田日魯ノ妥協ニ付テハ有力者ノ斡旋アル模様ナルカ氣付ノ儘開陳ス説明ヲ省クモ御吟味アリタシ

イ、宇田ハ関係漁区全部ノ経営及製品ノ販売一切ヲ日魯ニ委任ス蘇側ニ対シテハ共同販売トシ要スルニ権利者名義ノ変更ヲ為ス右監督ノ意味ニテ取締役一名監査役一名ヲ宇田派ヨリ入社セシメ

ロ、日魯ハ委嘱ヲ受ケタル漁区ニ関スル収支ヲ別ニ計算ス(一)関係漁区ノ借区料及税金ノミ宇田派ニテ支弁ス(二)純益金ノアル場合其ノ配当ハ例ヘハ日魯一割宇田八割トス但シ此ノ率ハ宇田カ資金融通等ニ付日魯ニ援助スヘキ程度ニ依リ協定ス(三)損失ノ場合ト雖宇田ハ日魯ニ若干ノ手数料ヲ支払フ(例ヘハ製品販売価格ノ協定)

六、宇田落札価格カ不当ニ高キニ失シ為ニ我カ權益ノ根底ヲ危殆ナラシムルモノナリトノ疑心ニ付テハ検討ノ価値アリ北洋漁業カ既ニ冒險の企業時代ヲ去リ科学的経営ノ可能ナル域ニ達セル事ハ疑無キカ如シ日魯カ從來ノ如キ

他ノ本邦人ノ入札価格ニ比シ格段ノ高値ナルハ何等容疑ノ余地ナク之カ現存スル限既得ノ缶詰工場関係漁区ノ借区料及抵代税ニ約五倍ノ騰貴ヲ来スハ勿論今後毎年行ハルヘキ競売ニ於テ最低価格釣上ノ具ニ供セラルル処多大ナルノミナラス専門家ノ調査ニ依レハ宇田漁区ノ經濟の価値ハ其借区料ヲ以テシテハ「ルーブル」価値ノ如何ニ不拘収支相償ハサル程度ノモノニシテ若シ「ルーブル」価値ノ立直ル場合ニハ莫大ノ損失ヲ招クヘク結局宇田ノ落札価格ヲ其儘ニシオキテハ今後一般邦人漁区ノ経営難ヲ生シ殊ニ中小漁業家ノ現状ニ於テハ競売ニ堪ヘスシテ自然絶滅ノ悲境ニ陥ルモノ多数アルヘク從テ我方ハ有名無実ナル条約上ノ漁業權ヲ擁スルニ過キサル寒心スヘキ事態ヲ惹起スル虞アリ仍テ政府トシテモ前記兩派ノ妥協ニ依リ宇田ニ於テ自ラ權利拋棄ノ意思ヲ表明シタル此際何トカシテ宇田借区料ヲ一掃シ以テ事態ヲ常道ニ復セシムル様致タキニ付貴官ハ右御舎ノ上大体左記ノ趣旨ニ依リ篤ト貴地当局ト懇談ヲ交ヘラレ漁期切迫ノ際故急速我方要望達成方御尽力アリタシ

一、宇田派日魯兩者間妥協ノ結果宇田ハ其入札競売セル七十八漁区ニ対スル權利ヲ拋棄スルノ決意ヲ表示シ居レル

經營方法ヲ採リテモ猶多領ノ利益ヲ收メ得タル点外ニ中小漁業者カ昔ナカラノ經營方法ヲ改メサルカ如キハ注意ニ値ス此ノ点ニ付テハ小生課長在任當時起草セルモノ存スル筈ニ付御一覽ヲ得ハ幸ナリ(管?氏モ承知ノ筈)

197 昭和4年5月16日 田中外務大臣より 在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

宇田・日魯漁業間の妥協成立に伴う善後措置
に關シテ連側当局と交渉方訓令

本省 5月16日後発

第一四二号(至急)

往電第一三六号ニ関シ

宇田入札ニ依リ惹起セラレタル宇田派及日魯漁業間ノ紛争ハ民間有力者ノ調停ニ依リ去ル五月十二日兩派ノ妥協成立シタル所妥協条件ハ要スルニ宇田ハ日魯ノ為其獲得漁区ノ放棄ヲ容認スルト共ニ日魯会社今後ノ經營ニ依ル利益ノ幾分ヲ受クル趣旨ニシテ宇田契約ノ借区料ノ減額乃至右漁区ノ拋棄及日魯ヘノ帰属方等ニ必要ナル「ソ」側トノ交渉ニ就テハ政府ニ於テ尽力スルコトナリタリ宇田借区料ノ採算的ナリヤ否ヤノ問題ハ後段申述ル通りナルモ「ソ」側及

モ既ニ保証金及前半期借区料並抵代税ヲ納付シ借区契約ヲ締結シタルモノナルヲ以テ右契約ノ拋棄及其ノ手続ハ全ク「ソ」連邦法規ニ依リ之ヲ決スヘキ次第ナル所貸付条件其他ノ規定ニ依レハ契約ノ拋棄即チ契約ノ失効ハ契約当事者タル漁労庁及宇田兩者ノ合意(貸付条件第二〇条)ニ依ル外無カルヘシ仍而權利拋棄ノ決意ヲ為セル宇田カ其ノ手続ニ付政府ニ問ヒ来リタル際モ其ノ旨申聞ケ置キタルニ付同人ハ不遠漁労庁ニ対シ失効ノ合意ヲ求ムルノ措置ニ出ツヘク其際ハ「ソ」側ニ於テモ同人ノ希望ニ応シ合意ヲ与ヘラルル様「ソ」連邦政府ノ好意的配慮ヲ求メサルヲ得ス尤モ宇田カ契約失効ヲ希望スルニ至レル事情ニ付テハ同人カ外務省當局ニ対スル説明ニ依レハ一ニ其ノ競売セル借区料ノ高値ヲ以テシテハ到底同人等ノ現ニ有シ得ヘキ經營能力ノ下ニ於テ利益ヲ挙クルノ採算不可能ナルニ在リ尚同人ノ自白ニ依レハ最初秘密裡ニ競売参加ノ計画ヲ立テタル当時ハ現在ヨリモ数倍低キ入札価格ヲ予想シ經營ノ採算ヲ為シタルニ不拘浦潮ニ於テ直接入札ニ關係シタル者ノ誤算ト日魯トノ抗爭心理トニ驅ラレ心ナラスモ予想以上ノ入値ヲ為シ爾來ハ四囲ノ情

況ト騎虎ノ勢ニ驅ラレ遂ニ契約締結ヲ完了スルニ至リタルモ同人ハ競落価格ヲ知りタル当時ヨリ漁区ノ経営見込立タス之ヲ断念スル外ナキヲ自覚シオリタル趣ナリ同人等カ入札ニ至レル動機ハ兎ニ角其行為ハ正ニ投機的ノ行為ト解スル外無キコトハ政府ニ於テモ之ヲ認ムル次第ナルニ付「ソ」側ニ於テ日「ソ」兩國ノ共ニ排斥スヘキ投機的契約トシテ貸付条件第二十一条ニ予見セル不認可ノ取扱ヲ為スモ我方トシテハ何等異議無シ尚我方トシテハ右孰レノ場合ニ於テモ宇田ハ貸下条件第十八条ノ損害賠償ハ免ルヘキモノト期待シ居ルモ既ニ支払済ノ諸納金ハ一切之ヲ喪失スルモノト解シオレリ

二、次に起ルヘキ問題ハ七十八漁区ノ帰属問題ナル所右ハ厳格ナル意義ニ於テハ来年度ノ競売ヲ俟チ其ノ帰属ヲ定ムヘキ筋合ナリトノ説アルヘシト雖モ少数ノ漁区ノ問題ナラハ格別今回ノ如キ多数漁区ヲ無経営ノ儘一年ヲ空過スルハ漁業企業本来ノ性質ニ鑑ミ漁場開発ノ為条約ヲ締結シタル日「ソ」兩國政府ノ趣旨ニモアラサルヘキハ勿論ノ義ナルカ此等多数漁区経営ノ中止ニ因ル失業漁夫及關係商工業者ノ苦痛ニ伴フ社会的事情ニ付テモ「ソ」側

個ノ漁区ニ付多少ノ調節ヲナスハ已ムヲ得サルヘシ

(四)若シ「ソ」側ニ於テ何等カノ事情ニ依リ右便法採用方困難トセハ此際至急競売ヲ執行シ關係漁区ノ帰属ヲ定ムルコト

思フニ異常ノ事態ノ下ニ於テハ一度条約所定ノ競売ニ付シタル漁区ヲ再ヒ同一条件ヲ以テ競売ニ付スルコトハ条約ノ精神ニ顧ミルモ將又条約ニ於テ再競売ノ制度ヲ特ニ規定シタル趣旨ニ照スモ何等差支ナキ次第ナリ殊ニ關係漁区中大多数ノ漁区ニ就テハ盛漁期末タ到来シオラス此際早キニ臨ンテ競売ヲ行フコトハ時期モ遅シトセス(往年五月中旬ニ行ヒタル先例モアリ)從テ本案モ臨機合理ノ解決案ト確信ス尚我方ハ本件競売ヲ以テ将来ノ先例ヲ作ラントスル意図毫末モ存セサルニ付「ソ」側ニ於テ希望セハ右ノ趣旨ヲ公文ヲ以テ明カニスルコトニ異議無シ

三、之ヲ要スルニ「ソ」連邦内ニ於ケル邦人諸企業ノ盛衰ハ兩國經濟關係ノ最鞏固ナル連鎖ニシテ相互ノ国交モ之ニ影響セラルル所頗ル大ナルハ今更叙説ヲ要セス而シテ極東露領ニ於ケル漁業ハ邦人企業ノ根幹ヲ為スモノニシ

ノ深甚ナル考慮ヲ求メサルヲ得ス從テ我方トシテハ左記二案中孰レカニ依リ本件漁区帰属ノ途ヲ講セラルルコトヲ要望シタシ左記二案ハ何レモ漁期ノ切迫ヲ顧慮シ且「ソ」側ノ立場ヲモ尊重シタル案ナリト確信スルニ付此際大局上ノ見地ヨリ至急「ソ」側ノ好意的考量ヲ煩ハシタシ

(イ)「ソ」連邦法規タル一九二七年十一月制定ノ漁場貸付規則第四十一条(イ)ニ依リ本年度限りノ便法トシテ之カ経営ヲ希望スル日本臣民ニ貸付スルコト

同項ハ契約失効ノ場合次年度ノ競売ヲ俟タス臨時的ニ漁区ノ帰属ヲ決セムトスルノ便法ト解釈セラルル若シ「ソ」側ニ於テ本案ヲ容認セラルルニ於テハ「ソ」側ノ希望ニ依リテハ關係漁区全部ヲ来年度改メテ条約上ノ競売ニ付スルコトニ付適當ノ取極ヲ為スモ差支ナシ又借区料其他ノ条件ニ付テハ相互ニ同情ト好意トヲ以テ協定シ得ヘク殊ニ借区料ノ如キハ四月五日ノ競売ニ於テ宇田以外ノ邦人漁業者カ漁区ノ価値ニ相当ト認メタル入札ヲ為シ居ルヲ以テ右入値ヲ標準トスルヲ合理的トナスヘキモ右貸付ハ本年限りノ便法ナルニ鑑ミ個

テ善隣ノ大義ト共存共栄ノ觀念ニ立脚シテ新条約ノ締結ニ苦心シタル兩國政府ノ根本精神モ亦実ニ茲ニ存ス今不幸ニシテ不慮ノ出来事ニ遭遇シタルハ我方ノ甚遺憾ニ不堪所ナリト雖モ事態茲ニ至リテハ此出来事ノ善後策ヲ完ウシテ新条約ノ円滑ナル運用ヲ計ルニ努メサルヘカラス此趣旨ハ「ソ」側ニ於テモ同感ナルヘク茲ニ我方ノ要望ヲ致シテ其ノ好意的考慮ニ訴フル次第ナリ
本電ハバロフスク及浦潮へ暗送セリ

198 昭和4年5月20日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田の契約失効希望表明に対するソ連側の取
扱い振り報告

モスクワ 5月20日後発
本省 5月21日前着

第二〇二号
貴電第一四二二号ニ関シ

急速解決ノ為ニハ我方ノ意向ヲ平ク打明クルヲ得策ト認メ「カズロフスキー」ニ対シ先ツ以テ宇田カ契約ノ失効ヲ希望スルニ至レル事情ヲ充分徹底スル様説明シタル上蘇側ニ

テ宇田契約ノ認可ヲ取消スモ亦合意ニ依ル解約ヲ為スモ可ナルコト之等ノ処分ニ付テハ蘇側ノ好意的決定ニ俟ツコトトシ苦シカラサルコト並關係漁区貸下ノ形式ニ付テハ此ノ際改メテ競売ヲ行フモ又ハ貸付規則第四十一条ニ依リ特別貸下ヲ為スモ可ナリ其ノ借区料ニ付テハ蘇側トシテハ既ニ宇田ヨリ高価ナル一年分ヲ取得シ居レルモ四月五日宇田以外ノ日本人カ入札セル位ノモノニテ協定スルモ苦シカラサルコト等訓令ノ範圍ニ於テ我方ノ意向ヲ詳述シ本件カ日本ニ於テ多大ノ注意ヲ払ハレ居ルニ鑑ミ蘇側ノ態度如何ハ日本ニ於ケル對蘇輿論ニ多大ノ影響アルヘキ旨ヲモ力説シ一日モ速ニ解決方篤ト懇談セルニ「カ」ハ今直ニ意見ヲ述ヘ難キハ遺憾ナルモ日本側ノ要望ニ付テハ好ク諒解セルヲ以テ円満解決方極力尽力スヘシ尤モ關係官庁ト種々協議ヲ要スルニ付一兩日ト云フカ如キ短時日ニ確タル回答ヲ為シ得サルヤモ計リ難シ此ノ点ハ日本側ニテ諒トセラレタシ又手続上宇田カ契約失効希望ヲ蘇側ニ申入ルコトヲ是非必要トスルニ付成ルヘク速ニ右手統ヲ執ラシムル様日本側ニテモ措置アランコトヲ望ム旨述ヘタリ

(2) 尚(一)本官ハ七十八漁区中「コロペラチーブ」ノ希望セシニ

モスクワ 5月20日後発
本省 5月21日後着

第二〇三号

往電第二〇二号ニ関シ

二十日「コロチヤ」ニ対シテモ「カズロフスキー」ニ対シナセルト同様ノ趣旨ニテ篤ト懇談セルニ「コ」ハ日本側今回ノ提案ニ対スル批評ハ之ヲ避クヘシ兎ニ角漁期切迫シ一日モ猶予シ難キハ本官ノ言ノ通ナルニ付極力円満解決方尽力スヘシト答ヘタル上其ノ私見トシテ「ソ」側トシテハ今更競売ヲ行フコトニ付テハ技術上ノ關係モアリ恐ラク同意困難ナラン從テ特別貸下ノ方法ニ依ルノ外ナカラン何レニスルモ宇田ハ此ノ際至急契約失効ノ希望ノ申入ヲナサシムルコト必要ナリ抵代税ニ付テハ本官ノ所説ノ如ク研究ノ余地アルニ付宇田ハ漁労庁ニ対シ其ノ返還方又ハ實際經營スルモノノ支払フヘキ税金ト相殺方交渉セシメラレテハ如何又日魯ハ漁労庁ニ対シ此ノ際至急放棄漁区ノ經營希望申入ヲナサシメ(ソ側カ競売ニ依ルコトニ決定スルモ何等害ナシ)借区料ニ付テハ宇田及日魯共同シテ宇田落札価額ノ高価過キル点ヲ力説シ四月五日日魯入札価格ヲ基準トシ場合

漁区ニ付テモ日本人即チ日魯ニ經營セシムルコトトシタキ旨要望シ置ケルカ或ハ右ニ付テハ蘇側ニテ同意ヲ難スルヤモ計リ難シ若シ關係漁区ヲ此ノ際更メテ競売ニ付スルコトトナラハ日魯ハ該二漁区ニ対スル入札ヲ差控フルヲ穩當ト考ヘラルル処特別貸下ケノ場合ニ於テハ本年一年限りノ便法ナルノミナラス日本人ノ競売セルモノナリトノ理由ニテ依然日魯ニ經營方主張スヘキヤ或ハ「コロペラチーブ」ニ対シテモ特別貸下ケヲ認ムルコトトシ可ナルヤ又(二)特別貸下ケノ場合借区料其ノ他ノ条件ニ關スル協定ニ付テハ恐ラク蘇側ハ極東漁業庁ト關係当事者トノ間ノ商議ニ委シタキ旨主張スルモノト推セラルル処大体ノ基準ニ付政府間ニ話合着カス其ノ他ハ總テ契約当事者間ノ商議ニ委スルコトトシ然ルヘキヤ不取敢右ノ点ニ付至急何分ノ回電アリタシ哈府へ転電シ浦潮へ暗送セリ

199 昭和4年5月20日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田問題に關し再競売によらず特別貸下げと
したい旨ソ連側の希望について

ニ依リテハ一割位ヲ増シタルモノニテ協定セシメラレテハ如何右ハ問題ノ急速解決ヲ計ル為ニ敢テ進言スル次第ナリト述ヘタリ

哈府、浦潮へ転電セリ

200 昭和4年5月23日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

露領水産組合の決定に対するイズヴェスチャ
およびプラウダの反響

別電 昭和四年五月二十三日付在ソ連邦酒匂臨時代理
大使より田中外務大臣宛第二一一号
イズヴェスチャおよびプラウダ記事訳報
ウラジオストック 5月23日後発
本省 5月24日前着

第二一〇号

二十三日ノ当地新聞ハ二十二日東京発「タス」トシテ貴電第一五二号ノ声明書要領ヲ掲載スルト共ニ右ニ関シテハ日本外務省ハ之ヲ意外トスル意ヲ表示セリトノ報道ヲ載セ又二十一日発「タス」トシテ通商代表部ハ日本漁業者殊ニ日魯ニ対シ魚類売渡契約ヲ締結セル旨ヲ併セテ報シタルカ右組合ノ声明ニ関シ同日「イズヴェスチャ」及「プラウダ」

ハ夫々大要別電ノ如キ批評ヲナセリ

(別電)

モスクワ 5月23日後発
本省 5月25日前着

第二一一号

「イヴヴェスチャ」

組合ノ声明ハ精神ノ平調ヲ失ヒタル当業者カ日本政府ノ支持ヲ受クルコト不可能ナルヲ知り遂ニ自己ノ危険ヲ以テ蘇連邦ノ水域ニ於テ漁業ニ着手セントスルニ在リ

組合ノ蘇政府ニ対シ為シ居ル非難ハ徹頭徹尾虚偽ナリ十八漁区ハ競売ニ参加セスシテ必要ノ漁区ヲ取得スヘク国营企業ノ為ニ条約ノ規定ニ從テ留保セラレタル漁区ナリ更ニ三十八漁区ニ関シテハ恰モ「トロヤノフスキー」カ之ヲ日本漁業者ニ交付方約諾セルカ如ク云為シ居ルモ之亦全ク虚偽ナリ加之約十ヶ所ノ漁区讓渡方ニ関シ日本当業者ト之カ所冇者タル蘇連邦個人漁業者間ニ行ハレ居リタル交渉ヲ組合ノ一派カ悪意ヲ以テ妨害シタルハ明白ナル事実ナリ而シテ日本ノ権利ヲ僭称セル組合カ字田ノ正当ニ取得セル七十八漁区ヲ手ニ収メムトスル言ヒ懸リハ之亦甚タ不法ナリ

約言ヲ云為シテ無法ノ言ヒ懸リヲ為シ居ル点ハ暫ク措モ日魯ハ同国人カ取得シタル七十八漁区ニ於テ奪掠ヲ為スヲ辞セサルモノナル点ハ特記セサルヘカラス組合ノ熱狂的病的ノ声明ハ吾人ニ憐憫ノ感ヲ抱カシム何トナレハ若シ日本政府カ出漁スルヲ得スシテ当業者カ不法ノ行為ニ出ツルニ於テハ地方官憲ハ直ニ之ヲ排撃シ得ルヲ以テナリ然レトモ吾人ハ此ノ際自由出漁ナル憫ムヘキ武者ヲ永久ニ滅失セシムル為断然タル措置ヲ採ラサルヘカラス日本漁業ニ対シテハ事実ヲ以テ勘察加ハ満鉄ニアラサルコトヲ銘記セシメサルヘカラス

201 昭和4年5月23日

田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

露領水産組合の自由出漁声明に批判的な本邦

新聞論説について

本省 5月23日後発

第一五四号

露水組合ノ自由出漁声明ニ関シ都下重ナル新聞ハ一斉ニ十二日夕刊又ハ二十三日朝刊ニ於テ嚴格ナル批評ヲ加ヘ往年特別ノ事情ノ下ニ行ハレタル自由出漁ニ味ヲ占メタル当

吾人ハ理性ヲ失ヒタル掠奪者ノ威嚇カ毫モ実行性ヲ有スルモノニアラサルヲ知ルモノニシテ地方官憲カ「メルクロフ」時代ノ復帰ヲ空想シ居ル人士ヲ冷静ニ帰ラシムル為必要ノ措置ヲ講スヘキヲ疑ハス

今ヤ吾人ハ程度ト責任ノ觀念ヲ失ヒタル分子ノ此ノ上ノ「プロボケイション」ヲ俟ツコトナク蘇連邦ニシテ漁業ヲ行フ外国人ヲシテ漁業權ハ主人タル蘇連邦ノ誠実ト(脱)タルモノニ対スル懇切トヲ評価スルコトヲ得且蘇連邦ノ法規ヲ忠実ニ遵守スルモノニ対シテノミ賦与セラルルモノナルコトヲ此ノ際永久ニ理解セシムルコトヲ考慮スヘキ時ナリ日本政府ハ組合ノ声明ニ言フカ如キ方法ハ日本漁業ノ利益ニトリ危険ナルコトヲ諒知シ居レリ吾人ハ日本政府カ一派ノモノニ於テ漁業条約ヲ破壊シ其ノ結果平穩且適法ニ漁業ヲ行ハントシ居ルモノニ困難ヲ与フルコトナカラムル為必要ノ措置ヲ採ランコトヲ希望セサルヲ得ス

「ブラウダ」

組合ノ厚カマシキ声明ハ破産ニ瀕セル日魯カ漁業条約ト競売ノ結果トヲ破棄センカ為ニ遮ニ無ニ二横車ヲ押サントシ居ルモノナルコトヲ示スモノナリ「トロヤノフスキー」ノ

業者カ當時為ニ蒙リタル国家的損失ヲ顧ミス又条約締結ノ今日事業全ク一変セルヲ弁ヘス再ヒ之カ実行ヲ夢想スルハ無智モ甚シ右ハ名ヲ国家ノ權益ニ仮リ実ハ当業者自身ノ利己的貪欲ヲ満サントスルモノニシテ次ニ「モスコ」ニ於テ重要交渉行ハレ居ル際斯ル盲動ハ嚴ニ戒ムルヲ要ストノ趣旨ノ記事ヲ掲ケオレルカ殊ニ朝日及国民ハ大要左ノ趣旨ノ論説ヲ掲載セリ

(朝日)如何ナル事情アルトモ一旦競落シタル漁区ヲ借区料ヲ軽減シテ他ニ継承セシムルハ契約相手方ノ好意ニ俟ツ外無ク其ノ困難ナル交渉ヲ外務当局ニ一任シツツ自由出漁ノ声明ヲナスハ乱暴至極ナリ仮令国家ノ權益ノ名ニ於テ為ストモ国際關係上重大ナル声明ヲ一水産組合カ敢テスルハ許スヘカラサル非違ナリ又実力行使ノ直接行動ハ国家ノ力ヲ以テスルモ結局國際的權益擁護ニ不利ナルハ從來ノ例ニ徴シ疑ヲ容レズ

(國民)如何ナル理由ニ依ルモ蔽トシテ条約ノ存スル以上之ヲ無視シテ自由出漁ヲナスハ到底吾人ノ与シ得サル所ナリ權益ノ擁護乃至國家的見地ナル抽象的文字ノ内容ハ特ニ検討ヲ要ス北洋ノ漁業權ハ我カ重大ナル權益ナリト雖モ自

由出漁カコノ權益ヲ擁護シ確保スル所以ナリヤ疑ヒナキ能ハス思フニ当業者ハ条約ニ基キテ出漁スルヨリモ寧ロ自由出漁ヲ希望スルモノナラムモ之カ実行ハ国帑ヲ空費シ結局彼等ノ貪婪ヲ満サンカタメ国民ニ過重ノ負担ヲ強イルモノナリ

本電ハバロフスクニ転電シ浦潮ニ暗送セシメラレタシ

202 昭和4年5月23日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
田中外交大臣宛(電報)

漁区問題解決のため宇田の権利放棄につきソ

連側当局者と懇談

モスクワ 5月23日後発
本省 5月25日前着

第二一二号

二十三日「カズロフスキー」ヲ往訪セルニ「カ」ハ「カラハン」ヨリ申付ニ依ル次第ナリトテ其ノ際蘇連邦「ソビエト」大会開会中ノ為茲数日間ハ残念ナカラ「カラハン」ニ於テ会見ノ都合付キ兼ヌルニ付急キノ問題ハ自分(「カズロフ」)ト会見セラレタシトノ事ナリト断リヲ述ヘタル上組合宣言ノ事東京大使館カ取消ノ要求ヲ為セシ後更ニ偽ノ

シ難キモ宇田カ権利放棄ノ手續ヲ履行セハ該漁区ヲ本年日本人ノ希望者ニ経営セシムル事ニハ「カラハン」始メ蘇連邦トシテ異議ナシ但シ貸下ノ形式借区料ノ決定ニ付未定ナリ競売ヲ行フ事ニハ技術上ノ困難アリトノ事ナルカ貸下規則第四十一条ニ依ル場合借区料ノ決定ハ漁労庁ト関係日本人又ハ其ノ代理者トノ商議ニ譲ラサルヲ得サルカ如シ其ノ場合漁区ノ経済価値ヲ考慮スヘキ事トナルヘキカ一部ニハ宇田及日魯カ入札セル価格ノ中間ヲ取リテハ如何トノ説モ有リ又本件ノ解決上公文ノ交換等何等カノ取極ヲ要スヘキヤ否ヤニ付テハ外務部内ニ於テ考究中ナルカ「カラハン」多忙ニテ昨日ヨリ探シ廻リ居ルモ未タ同氏ト面会出来サル実状ナリ兎ニ角明二十四日晚ニ再会シタシ尤モ宇田ノ申請ハ早キヲ要スト述ヘタルニ依リ本官ハ宇田手續ノ件ハ更ニ政府ニ電報スヘキニ付此ノ上トモ急速解決方配慮ヲ希望スト云ヘルニ「カ」ハ担任者トシテノミナラス本官ノ親友トシテ極力努力中ニ付一任アリタク何トカ解決スヘキヲ以テ余リ心配セラレサラン事ヲ望ムト答ヘタリ

尚右会談中本官ヨリノ手續トシテハ漁労庁ト当事者トノ間ニ於テ協定スヘキモノアルヘキモ急速解決ノ為当地ニテ妥

「ステートメント」ヲ掲載セル新聞アリタル事漁区讓渡問題ニ付本月八日在浦潮日本総領事ハ七個ヲ指摘シタルカ右ハ有権的ノモノト考ヘサルヲ得サルト共ニ實際ニ日本当業者ノ経営ヲ希望スルモノハ左程多数ナラサルヘキニ拘ラス其ノ後更ニ二十数個ヲ提議セリ右ハ日本当業者カ漁期切迫故意ニ商議ヲ遷延セシメタルト同様蘇側ニ難題ヲ持出シ言懸ヲ作ラントスル策略ナラスヤト推測セラルル処組合カ今日ノ如キ態度ニ出タルハ政府ノ一部ニ支持者アルモノト推測セサルヲ得サル事等ニ付長々ト弁シ立テ斯ル事態ニ於テハ七十八漁区問題ヲ解決セントスル事甚タ困難ナリ即チ蘇側ニ代リテ蘇連邦領水ノ主人公タラントシ極東漁労庁ニ代リテ許可書ヲ発給セントスル者ニ対シ蘇側当局カ好意ヲ表シ得サルハ当然ナラスヤト嫌味ヲ述ヘ組合宣言ニ対スル日本政府ノ意向如何ト云ヘルニ付本官ハ貴電第一五〇号ニ基キ適當ニ説明スルト共ニ先方ノ誤解ト認ムル点ハ之ヲ正シ要ハ未解決問題ノ急速解決ニ在リトテ段々ト懇談セル処「カ」ハ漸ク打解ケタル態度ヲ取リ七十八漁区問題ニ付テハ蘇側ニテ日本政府ノミナラス本官ノ立場ヲモ充分諒察シ昨日モ農務部ト協議シ極東ヘモ電照中ナリ未タ公式ニ確答

決シタシト云ヘルニ「カ」ハ可成其ノ方針ニテ進ムヘシト答ヘタリ

哈府へ転電シ浦潮へ暗送セシム

203 昭和4年5月24日 田中外交大臣より
在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛(電報)

露領水産組合の決定をめぐる吉田次官と駐日

ソ連大使との会談

本省 5月24日後発

第一五七号

往電第一五三号ニ関シ

二十四日午前「トロヤノフスキー」大使吉田次官ヲ来訪シ会談ノ際組合ノ声明ニ言及シ本件ニ関シ何等「モスコ」ヨリ訓電ヲ受ケタル次第ニ非サルモト前置シ自分ノ得タル情報ニ依レハ右声明ハ所謂大使館「ステートメント」問題発生前ニ書面ヲ以テ用意サレ居タルモノニシテ組合側ヨリ今ニ取消ノ措置ニ出テサルヨリ見ルモ組合ハ依然其ノ計画ヲ有スルモノト断定セサルヲ得ス当業者ノ斯ル態度ハ日本政府トノ交渉案件ニ付円満解決ヲ企図シツアル「モスコ」及地方当局ニ対シ恰モ爆弾ヲ投スルカ如キモノニシテ

結果憂慮ニ堪ヘス又二十三日ノ日々夕刊ニ掲ケラルル山本農相談ニ依レハ同相ハ必シモ自由出漁ヲ排除セラレサルカ如キ印象ヲ受ケ「ソ」側トシテハ遺憾ナリト述ヘタルニ付次官ハ所謂組合声明ノ発表時期ニ付テハ情報ヲ異ニシ居リ又御指摘ノ農相談モ正確ニ非スト確信ス本件発生後時ヲ移サス組合幹部ニ対シ通商局長及水産局長ヨリ其ノ非違ヲ説示シ置キタルハ大使モ御承知ノ通ニシテ条約ヲ無視スル自由出漁ノ如キハ日本政府トシテ断シテ容認セサルハ今更御説明ノ要モ無カルヘシ二十三日「モスコ」ヘモ参考トシテ電報シ置ケルカ同日ノ新聞論調ニ依リテモ本件ニ対スル日本ノ輿論ハ明瞭ナルヘク右ハ克ク政府ノ意向ヲ反映シ居レリト説明シタル上大使ヨリモ進ンテ真相御取次ノ要アルヘシト結ヒタル所同大使モ日本政府特ニ外務省ノ御意向ハ夙ニ諒承シ居レリト満足ノ意ヲ表シタリ

204 昭和4年5月25日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

宇田の在京ソ連総領事館への契約解除願書提出について

千布度)一九四(四万一千布度)ノ漁区ハ孰レモ「コ」トシテハ取得シ得サル次第ナリ就テハ「コ」ノ既ニ取得シ居レル標準高合計一〇万布度トノ差額ハ邦人経営希望者トノ合意ヲ条件トシテ七十八漁区中他ノ漁区ノ特別貸下ニ依リ補足スル外無キモノト思考セラルル從テ右二漁区ハ此際邦人希望者ニ貸下得ル様致度シ

二、漁区貸下料其ノ他ニ付テハ貴官御申越ノ通取計ハレ差支無キモ何分漁期切迫ノ際ニ付協定促進ノ意味ニ於テ又後日ノ紛議ヲ避ケル為ニモ將又貴電第二〇三号末段「コルチャ」ノ所言モアルニ付貴地ニ於ケル協議ニテ右貴電程度ノ大体ノ基準ヲ決定セラレ右基準ニ依リ契約当事者ニ於テ容易ニ商議シ得ル様可然御尽力アリ度シ

本電別電ト共ニハバロフスクヘ転電シ浦潮へ暗送セシム

(別電)

第一六〇号

本年四月五日拙者ノ競落シタル一般漁区及蟹漁区七十八ヶ所ニ対スル権利ヲ放棄シタク右ハ右競落価格ヲ以テシテハ採算困難ニシテ経営不可能ナルコト判明シタルカ為ナルヲ以テ契約解除方可然御措置ヲ請フ

別電 昭和四年五月二十五日付田中外務大臣より在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛第一六〇号
在ハバロフスク漁政庁に提出した宇田の契約解除願書

本省 5月25日後発

第一六一号
往電第一五七号ニ関シ
二十五日午前菅課長及島田書記官ハ宇田同伴在京「ソ」連邦総領事館ニ赴キ宇田ノ身分及行為能力ヲ証明シ所定ノ公証手續ヲ履ミタル上宇田ハ別電第一六〇号ノ願書ヲ同総領事館經由在ハバロフスク漁政庁ヘ電報セリ

尚貴電第二〇二号御請訓ノ件ハ左記趣旨ニ依リ御措置アリ度シ

一、「コーペラティブ」希望漁区ニ関シテハ「コ」ノ国内的地位ニ鑑ミ出来得ル限好意的考慮ヲ加ヘタキモ何分「コ」ハ二月二十八日競売ニ於テ一七一ア及一七一ベノ二漁区其ノ標準高合計七万五千六百四十一布度(ハバロフスク来電第一〇七号参照)ヲ取得シオレルニ付四月五日ノ競売ニ於テ「コ」ガ二番札トナレル一九三(四万五

哈府へ転電セリ

205 昭和4年5月25日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田の契約解除願書提出に対するソ連側の対応振りについて

モスクワ 5月25日後発
本省 5月26日後着

第二一九号
往電第二一二号ニ関シ
二十五日「カズロフスキー」ニ貴電第一六一号ニ基キ宇田ヨリ發電済ノ次第ヲ告ケタルニ「カ」ハ自分ハ法律家ニモアラス又即座ノコト故確タル意見ヲ述ヘ難キモ宇田カ採算不能ヲ理由トシ契約解除ヲ請願スル次第ナリトセハ契約ノ相手方タル漁業庁ハ容易ニ之ニ合意ヲ与ヘサルヤモ計リ難シト述ヘ暗ニ宇田ヨリ解除ニ際シ又ハ解除ノ後如何ナル要求ヲ提出スルヤ明ナラストノ意向ヲ洩セルヲ以テ本官ハ宇田ハ要スルニ経営ノ意思ナキモノナリ從テ契約失効ノ形式ノ如何ヲ問ハサルナリ又既ニ支払済ノ諸納金ノ処分ニ付テモ格段ノ要求アル次第ニ非ス唯抵代税ニ付テハ蘇側ノ法律

ニ基キ返還セラルヘキヤ否ヤ決セラルレハ可ナルノミナリト説明セルニ「カ」ハ宇田ニ於テ何故右ノ趣旨ノ意思表示ヲ為ササル次第ナルヤ兎ニ角日本側ノ立場ハ了解シ居ルニ付内部ノ協議ヲ急クヘク二十七日午後六時再會シタシト答ヘタルカ右會談ニ於テ「カ」ハ宇田日魯ノ妥協条件其ノ他日本諸新聞ノ論説及記事並吉田次官ト「トロヤノフスキー」トノ會談等ヲ持出シテ長広舌ヲ振ヒ曩ニ佐々木等カ渡浦ノ際蘇側官憲ハ從來ノ空氣ヲ一変スヘク大ニカムル処アリタルニ拘ラス佐々木ヲ始メ組合側殊ニ日魯カ蘇連邦攻撃ヲ継続シ居ルハ心外ナルト共ニ實際ノ処蘇側内部ニハ不快ノ念ヲ抱クモノアリ本件ノ円満解決ニモ困難ヲ感シ居ル次第ナリト述ヘ又特ニ朝日ノ論説ヲ引用シ今ヤ日本ノ輿論モ組合側ノ非望ヲ排撃スルカ如シ云々ト縷説スル処アリタリ之ニ對シ本官ハ言フ迄モナク必要ノ説明乃至反駁ヲ為シ置ケルカ右ニ付本官ハ蘇側ニ於テハ朝日ノ論説ニ余程刺戟セラレタルモノノ如ク宇田借料ノ減額程度ニ関シ内部ニ議論アリ其ノ主張ヲ有利ニスル素地ヲ造ランカ為前記ノ如ク縷説セルモノナリトノ印象ヲ得タリ

哈府へ転電シ浦潮へ暗送セシム

別記陳情書ヲ提出シテ運動シツツアル一面ソヴィエト大使館ニモ出頭シテ一等書記官「シュービン」ヲ通シ「日魯」側ノ横暴ヲ難シ妥協反対ノ陳情ヲ為ス所アリタルカ之内面ノ事情左記ノ通りニ有之

一、島一派ノ内中山(説)、西川(米)、藤井(猪)、中瀬(捨)等ハ妥協ニ関シ島カ殆ト独断的ニ解決ヲ為シ同人等ノ意見ヲ無視シタルコトニ不尠不滿ヲ以テ裏面妥協反対ノ意志ヲ抱持シ居レルカ中山、西川、中瀬等ハ本月十七、八日頃ヨリ再三ソヴィエト大使館ヲ訪問シ同大使ニ何事カ陳情シ居レル模様ナリ

二、函館水産労働代表田中巳之松外六名等ノ妥協反対陳情運動モ前記中山、西川等ノ意向ニ氣脈ヲ通シ相策応シ居レルモノニシテ中山等カ飽ク迄妥協ニ反対スルハ当初策画セシ現「日魯」ニ徹底的打撃ヲ与フル各種ノ難事情ヲ誘致セムカ為ト認メラル

三、田中巳之松等ハ従前在函館漁労長同志会(「日魯」系)ニ属シタルモ島派ノ依頼ニ応シ出漁準備ニ奔走シタル廉ニ依リ右同志会ヨリ除名処分ヲ受ケタル為妥協成立シテ「日魯」ノ経営ニ移ラハ自己一派ノ漁労長同漁夫等ハ日

206 昭和4年5月27日 宮田(光雄)警視總監より 田中(外務大臣)他宛

宇田漁区問題妥協反対陳情運動について

外秘第一六一六号 (5月28日接受)

昭和四年五月二十七日

警視總監 宮田 光雄

内務大臣 望月 圭介殿

外務大臣男爵 田中 義一殿

農林大臣 山本悌二郎殿

露領漁区問題妥協反対陳情ニ関スル件

露領漁区問題ニ関シ「日魯」側ト島一派トノ間ニ妥協成立シ問題ハ対露交渉ニ移リタルモ之ヨリ先島派ノ設立スヘキ新会社ノ出漁準備ニ関シ依頼ヲ受ケ出漁船漁具出漁漁夫雇傭等ノ手配ニ奔走シツツアリタル在函館船頭田中巳之松外六名ハ島派ノ着業準備トシテ既ニ雇傭契約ヲ了シタル漁労長三十二名漁夫一千二百名ノ救済ノ為島派ヲシテ本年度漁区経営ヲ為サシムル様即妥協反対陳情ノ為本月十九日上京シ函館水産労働代表名義ヲ以テ外務農林両省並社会局等ニ

魯側ニ雇傭セラレス失業セサルヘカラス仮リニ「日魯」ノ容ルル所トナルモ極メテ不利不快ノ立場ニ置カルルヲ以テ飽ク迄妥協ニ反対シ従前横暴ヲ極メタル「日魯」側漁労長等ニ對抗セサルヘカラストスルニアリ

右及申(通)報候

(別記)

陳情書

ソヴィエト国極東水域ニ於ケル漁区問題ニ関シ日魯漁業株式会社ト島徳藏氏トノ妥協ニ依リ先ツ問題ハ解決シタル如ク見ユルモ是レハ内国的解決ニシテ猶對外的交渉ノ残ルアリ一難去ツテ一難来ルノ感アリソヴィエト政府トノ交渉即宇田貫一郎氏ノ租借權ヲ放棄セシメテ競売入札ニ於ケルニ日魯漁業株式會社ヘ租借セシメントスルノ交渉ハ日蘇新漁業協約ニ拠ル租借契約締結猶予期間ナレハイサ知ラス契約締結後月余ニ渉ル今日ニ於テ如此交渉ヲ開始スルハ決シテ合法的ノモノニアラス又露国カ帝政時代以來伝統的ニ競売入札ニ際シニ番札ヲ入レタルモノニ落札セシメタル前例嘗テナク只単ニソヴィエト政府ノ好意ニ拠ル外ナク果シテ該政府ハ好意ヲ以テ我政府ノ交渉ヲ迎フルヤ否ヤハ甚

タ疑問視セサルヲ得ス例令交渉ニ交渉ヲ重ネタル結果其ノ目的ヲ達シ得ルモノトシテモ幾多ノ時日ヲ要シ為ニ本年度ノ漁期ヲ失シ日魯漁業株式会社モ島氏一派モ共ニ本年度ノ経営ヲ不可能ニ終ラシムルニ至ルハ想像ニ難カラス是処ニ於テ必然ニ起ルハ水産労働者ノ失業問題ニシテ既ニ島氏一派ノ着業準備トシテ漁労長二十二名漁夫一千二百名以上ヲ雇入レ居リ本年度漁業経営ヲ為スコト能ハサルトセハ是等労働者ノミナラス是等ニ伴フ多数ノ家族ヲモ路頭ニ迷ハシムルハ誠ニ由々敷社会問題ニシテ実ニ憂慮ニ堪エス是等ヲ救済スルハ他ナシ畢竟ソヴイェト政府トノ交渉ト切り離シテ現租借者ニ経営セシメテ以テ目下勃発セントシツツアル重大ナル問題ノ惹起ヲ未然ニ防止シ置キ徐ロニ対蘇交渉ノ歩ヲ進メラレ度

右及陳情候也

昭和四年五月二十一日

水産労働者代表

田中 巳之松
西川 富藏
福井 牧太郎

石沢 幸吉
西 正太郎
川口 玉造

207 昭和4年5月28日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田の契約解除理由不十分につき追加説明取
計い方ソ連側より申出

モスクワ 5月28日後発
本省 5月29日後着

第二二八号

往電第二二二二号ニ関シ

二十八日「カズロフスキー」ハ組合並ニ日魯ノ行動ハ困ツ
タモノナリ併シ折角尽力中ナリト述ヘタル上

(一)宇田電請ノ字句ニ付テハ内部ニ於テ協議ノ結果果シテ自

分カ前回述ヘタルト同様不十分ナリトノコトニ決定セリ

ト言ヘルニ付本官ヨリ宇田カ何等カノ要求ヲ為サヤモ計
リ難シトノ懸念アル次第ナリヤト問ヒタルニ「カ」ハ然
リト答ヘ結局宇田ヲシテ追加的申請トシテ「四月五日ノ
競売ニ於テ拙者カ落札セル一般漁区及蟹漁区七十八個所

ニ関シ極東漁業庁トノ間ニ締結セル契約ニ基ク拙者ノ権
利一切ヲ放棄シ度キハ前電ノ通ナリト何月何日以後(例
ヘハ五月二十九日以後)ニ於テハ前記漁区ノ経営又ハ讓
渡ニ関シテハ勿論既ニ納付セル諸納金ニ関シ極東漁業庁
ニ対シ何等ノ要求ヲ為ササルコトヲ声明ス但シ既ニ納付
セル抵代税ニ付テハ蘇連邦法規ニ從ヒ適當ニ処理アラン
コトヲ希望ス」トノ趣旨ヲ前回同様ノ手続ニテ至急電請
セシムルコトニ取計ラハレ度シ右電請ノ上ハ最早問題ナ
ク宇田契約失効ノコト確言スヘシト語り

(二)第二段ノ問題タル關係漁区ノ貸下方法ニ付テハ未タ確定

セサルモ宇田カ右(一)ノ手続ヲ終ル頃迄ニハ協議纏マルヘ
シト説ケリ

本官ハ右(一)ニ付テハ政府ニ於テモ反対ナカルヘキヲ信スル
ニ付早速前記趣旨ノ電請方取計方政府ニ電稟スヘシ就テハ
(二)ニ付此ノ上トモ急速解決方配慮アリ度シト言ヘルニ「カ」
ハ既ニ(一)ニ付数日ヲ費セルコト故(一)ノ手続ヲ完了セハ(二)ニ
付テハ最少ノ時日以内ニ解決シ得ヘキモノト思考スル旨答

ヘタリ
尚前記一ノ但書ハ本官ノ意見ニ基クモノナルカ「カ」ハ元

来抵代税ハ財務部關係ノモノナリ從テ前記ノ如ク宇田ヨリ
極東漁業庁ニ対シ何等ノ要求ヲ為ササルヘシト声明スルコ
トトセハ斯ル但書ハ不要ナルヘシトノ意見ナリシモ当然ノ
事柄ニテ別ニ反対スル次第非スト述ヘ居タリ就テハ為念
宇田ヲシテ右但書ヲ付記セシメラルル方適當ト思考ス

次ニ宇田ノ義務即チ漁業庁カ宇田ニ対スル損害賠償ノ要求
ヲ為サヤ否ヤノ点残り居レル処右ニ付テモ「カ」ト種々意
見ヲ交換セルカ「カ」ハ理論トシテハ宇田契約カ五年ノ期
間ヲ有シ其ノ間ニ於ケル借区料収入ノ減少ニ付蘇側ヨリ何
等ノ要求ヲ為シ得サルニ非サルヘク從テ漁業庁トシテハ賠
償要求權ノ保留ヲ為シ得ヘシ併シ實際問題トシテハ斯カル
コトナカルヘク何レニシテモ私的契約ノ事故結局ハ裁判ニ

依リ決スルコトトナルヘク此ノ際約言ヲ為シ難シ云々トノ
趣旨ヲ述ヘ居タルモ本官ヨリ漁業庁カ宇田ヲ訴フル場合ハ
日本裁判所ニ繫属スヘシ云々ト説明セルニ「カ」ハ然ラハ
問題トナラサルヘシ又此ノ際宇田ヨリ一切ノ義務ヲ免セラ
レタシトノ趣旨ヲ前記電請ニ付加スルモ実効ナカルヘク却
テ問題ヲ複雑トスル虞ナキニ非サルヲ以テ寧ロ前記一ノ通
義務ノ点ニ付テハ言及セサルヲ適當トスヘキヤニ考フト答

へタリ此ノ点ニ付テハ本官モ「カ」ト同意見ナルモ貴方ノ御都合ニ依リ宇田ヲシテ義務ノ点ヲ付記セシムルヤ否ヤ御決定アリタシ

尚宇田カ追加電請ヲ發セルトキハ直ニ御電示アリタシ

208 昭和4年5月29日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛(電報)

宇田の契約解除に対するソ連側の承諾取付方

要望

付記 昭和四年五月二十八日付チモンシェンコ漁政庁長

官代理より宇田貫一郎宛電報

宇田の請願に対する拒絶

本省 5月29日後発

第一六八号(至急)

二十九日午前宇田当省ニ出頭シ二十八日夜接受セル在ハバロフスタ漁業長官代理「チモンシェンコ」発同人大阪留守宅宛電報(別電訳文第一六九号)ヲ内報シ何分ノ指示ヲ仰キタルニ付協議ノ上回答スヘキ旨ヲ応ヘ一応引取ラシメ置キタリ

思フニ貴地中央官憲ノ意向未タ極東ニ伝ハリオラサル為極東ニテハ往電第一六〇号宇田申入カ「ソ」側国内法上不備

決ヲ急速実現シ其ノ氣勢ヲ削キ常道ニ復セシムルニ非サレハ焦慮ノ余リ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ凶リ難キ状況ニ在リ就テハ御如才モ無キコト乍ラ一日モ早ク「ソ」側ノ公式応諾取付方御尽力相成度
本電ハバロフスタへ転電シ浦潮へ暗送セシメタリ
(付記)
訳文
四月五日競売ニ於テ貴下ノ競落シタル漁区七十八ヶ所ニ対スル貸付契約解除方ニ関スル貴下ノ請願ヲ容認スルコトヲ絶対ニ拒絶ス

編注 右原文(露文)省略

209 昭和4年5月30日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛(電報)

露領水産組合が自由出漁を断行した場合には

保護し得ない旨の情報部長声明について

本省 5月30日後発

第一七三号

二十九日午後情報部長ヨリ新聞記者会見ノ際組合カ声明セ

ノ厭アルヲ理由トシ漁政庁トシテ一応之カ拒絶ヲナシタルモノト察セラルル所本件解決ハ漁期切迫ノ今日急速ヲ要ス次第二付貴官ハ更ニ貴地当局ト協議ヲ遂ケ中央ノ意向ヲ詳細極東ニ伝達スル様依頼セラレタル上宇田ヨリ漁政庁ニ対シ申入ヲ為スヘキ事項並ニ其ノ形式至急回電アリ度ク我方トシテハ往電第一四二号申進ノ趣旨ニ反セサル限「ソ」側国内法上所要ノ手続ハ如何様ニモ取計ハシムル所存ナリ尚本件善後措置ニ関シテハ累次ノ貴電ニ鑑ミ「ソ」側トシテモ十分好意的考慮ヲ加ヘ急速決定方取運ヒ中トハ存セラクルモ茲ニ憂慮ニ堪ヘサルハ組合ノ所謂自由出漁声明カ「ソ」側当局ニ与フヘキ悪影響ニシテ若シ之カ為メ折角順調ニ進行中ナル本件交渉カ停顿スルカ如キコトトモナラハ事態甚重大トナリ右無謀ナル声明ニ実行可能性ヲ生スル虞無シトセス右ノ場合政府トシテハ固ヨリ斯ル盲動ヲ容認スヘキ限ニ非サルヲ以テ政府ハ極力之ヲ阻止スヘシ然レトモ当業者トシテハ何分「ソ」側ニ於テ国营保留漁区問題未決ノ裡ニ国营ノ着業ヲ開始シ我方累次ノ抗議ニ拘ハラス其ノ着業範囲拡大セラレ我方条約上ノ權利ニ対シ尠カラサル危惧ノ念ヲ抱キ居ル矢先ナルヲ以テ切メテ本件交渉ノ円満解

リト称セラルル自由出漁ノ如キ条約ニ準拠セサル出漁方法ハ政府当局ノ断シテ容認セサル所ナルト共ニ之カ為邦人漁業者カ「ソ」連邦国内法規ニ照シ密漁又ハ盗漁ノ取扱ヲ受ケ嚴重ナル所罰ヲ受クルコトアルモ何等抗議ヲ為シ又ハ保護ヲ加フヘキ意図ナキ旨声明シタル所三十日朝刊ハ孰レモ本件ニ対スル政府ノ確定方針トシテ右声明ヲ敷衍シ掲載セリ右ハ過日或組合ニ対シ屢次其ノ輕挙ヲ警シメタルニ不拘組合ニ反省ノ色ナク寧ロ所謂出漁容認書ヲ發給シタリナトト我儘ナル宣伝ヲナス傾アルヲ以テ此際政府ノ方針ヲ明カニシテ組合ノ輕挙ヲ未然ニ防クト共ニ貴地ニ於ケル交渉ニモ便ナラシメントスル趣旨ナリ
ハバロフスタ及浦潮へ転電アリタシ

210 昭和4年5月31日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛(電報)

宇田ヨリ在京ソ連總領事館經由にてソ連側に

対し追加説明済み通報

別電

昭和四年五月三十一日付田中外務大臣ヨリ在ソ連邦酒勾臨時代理大使宛第一七九号

在ハバロフスタ漁政庁に提出した宇田の契約解

除追加願書

本省 5月31日後発

第一七八号

貴電第二二八号ニ関シ

三十一日午前宇田ハ在京「ソ」連邦総領事館經由在ハバロフスク漁業長官宛御来示ノ通別電第一七九号ノ追加申請ヲ電報セリ就テハ漁期切迫ノ際故此上トモ急速解決方御尽力アリタシ

尚前記貴電冒頭「カズロフスキー」ハ日魯ノ行動ヲモ詰リタル趣ナル所日魯ハ「ソ」側ニ於テモ既ニ承知ノ通国営保留漁区並宇田関係漁区ノ当ノ経営希望者ニシテ目下ノ対露交渉ノ成否ハ会社ノ死活問題トナリオレルカ故ニ現在ニテハ只管政府ノ支援助力ヲ請フヘキ立場ニ在リ從テ政府ノ意図ニ反スル今回ノ組合声明ノ如キニハ当初ヨリ何等關係無ク寧ロ露人競落漁区ヲ意ノ如ク讓受ケ得サリシニ、三名カ名ヲ国営保留漁区又ハ宇田問題ノ未決ニ仮リ佐々木ヲ強制シ所謂声明ヲナスニ立至ラシメタル事態ヲ甚迷惑トシ居ル訳ナルカ去リトテ組合ノ一員トシテ正面ヨリ之カ否定モナシ兼ネ進退兩難ノ窮況ニ在ル次第ナリ何分日魯ハ宇田契約

一ツの懇談に付て

モスクワ 6月1日前発
本省 6月2日後着

第二三八号(至急)

宇田追加電請ニ関スル貴電(無号)ハ本三十一日接受セル

ニ付本夜「カズロフスキー」ト長時間ニ亘リ懇談セリ

一、宇田ノ追加電請ニ付「カラハン」ハ「カズロフスキー」

ト懇談前ニ会见セリ(極東ヨリ未タ宇田ノ電請セル正式

露文「テキキスト」ノ転電ニ接シ居ラサルモ其ノ但書ニハ

疑義アルカ如シト云ヘルニ付本官ハ其ノ趣旨ヲ篤ト説明

セルニ「カラハン」ハ好ク之ヲ諒解セリ然シ尚係官ニ研

究セシムヘシト答ヘタルカスル行懸モアリタルヲ以テ為

念「カズロフスキー」ニ対シテハ宇田電請ノ字句形式ニ

付テハ如何ニモ取計フヘク右ニ付テハ政府ヨリ電請ニ接

シ居レリト述ヘタル処「カズ」ハ「カラハン」ト本官ト

ノ会谈ニ付テハ既ニ承知済ナルカ宇田カ既ニ追加電請ヲ

為シ且本官ヨリ右ノ如キ申出アル以上宇田契約ノ失効ニ

付テハ此ノ上問題ナカルヘク極東漁業庁ヨリ宇田ヘ其ノ

旨回電スルコトトナルヘシ然シ茲ニ一ツノ疑問突発セリ

ノ失効確定後ハ当然関係漁区経営希望者トシテ専ラ「ソ」側当局ノ好意ヲ求ムヘキ地位ニ在ルヲ以テ右御舎ノ上適當ノ機会ニ「カ」ニ対シ前記事情可然御説明置相成度シ
本電別電ト共ニハバロフスクヘ転電シ浦潮ヘ暗送セシム
(別電)

本省 5月31日前発

第一七九号

四月五日競売ニ於テ拙者ノ競落シタル一般漁区及蟹漁区七十八ヶ所借受ニ付拙者カ極東漁業庁ト締結シタル契約ニ基ク權利一切ヲ放棄シタキ旨ノ五月二十五日付拙者ノ電報申請ノ追加トシテ拙者ハ前記漁区ノ経営又ハ讓渡ニ関スルノミナラス現時迄拙者ノ納付シタル一切ノ納金ニ関シテモ千九百二十九年五月二十五日以後極東漁業庁ニ対シ何等ノ請求ヲ為ササルヘキ旨声明ス但シ抵代税ノ形式ニ於テ既ニ納付シタル税金及手数料ハ「ソ」連邦法律ニ依リ適當ニ処理セラレムコトヲ望ム

211 昭和4年6月1日

在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田の契約解除追加説明に關シカズロフスキ

夫ハ本朝極東漁業庁ヨリ当地農務部ニ対シ同庁カ中山及西川(正確ナラス)ノ兩名ヨリ宇田契約ト同一ノ条件ヲ以テ関係漁区ニ関スル權利義務一切ヲ引受ケタシトノ電請ニ接セル趣ヲ以テ指令ヲ仰キ来レル一事ナリト語り宇田ト右中山及西川トノ間ニ何等カ文書ニ依ル約束ノ如キモノ存セスヤ否ヤニ付本官ニ於テ承知スル処ナキヤト尋ネタリ依テ本官ハ右中山、西川ニ付テハ貴電第一五三号ニ基キ可然説明ヲ為シ尚文書ニ依ル約束云々ノ点ニ付テハ兎ニ角政府ニ電照スヘシト答ヘ且仮リニ彼等ノ間ニ何等スル約束アリトスルモ契約ノ名義人タル宇田カ權利ヲ拋棄スル以上中山等ニ於テ漁業庁ニ対シ何等要求ヲ為シ得ヘキ筋合ニアラス尤モ希望ノ申出ナラハ何人ニテモ之ヲ為シ得ヘシ從テ宇田契約ノ失効トハ関係ナキニアラスヤト説キタル処「カズ」ハ自分モスクワ考フルモ尚法律家ノ意見ヲ徴シ置クヘク又日本政府ヨリ前記本官ノ電照ニ対シ返電アラハ早速通知アリタシト述ヘタリ

二、「カズ」ハ宇田契約失効ノ場合農務部ニ於テハ関係漁区ヲ貸下規則第四十一条ニ依リ本年限り日本人ノ経営希望者ニ特別貸下ヲ為スコトニ異議ナキ次第ナリト告ケ右

ニ付テハ一面日本人ノ経営希望者ヨリ其ノ漁区名ヲ指摘シ極東漁業庁へ申請スル様取計ハレタク他面本件急速解決ニ便スル為日本大使館ヨリ公文ヲ以テ外務部ニ対シ右特別貸下ヲ希望スル旨申出アリタシト述ヘタリ

三、借区料ノ点ニ付テハ時余ニ亘リ彼此論議シ又懇談セル処「カズ」ハ曩ニ本官ヨリ少クトモ大体ノ基準ニテモ当地ニテ協定シ置キタシトノ希望申出モアリ尙随分尺力セルモ農務部ニ於テハ価格ノ協定ハ私的取引ニシテ当日双方間ニ於テ之カ商議ヲ為スヘキモノナリトノ意見ヲ固執シテ動かカス又外務部トシテハ何程ニテ貸下クヘシト農務部ニ命令スル訳ニモ行カスト日本希望者ヲシテ漁業庁ト商議セシメラレタシトノ趣旨ヲ繰返シ本官カステハ龍ヲ画キテ晴ヲ点レサルカ如シ仮リニ漁業庁カ高値ヲ主張ストセハ結局本件ハ解決セサルヘシ借区料ヲ莫斯科ニ於テ協定スル例アルニ非スヤト説キタルモ「カズ」ハ始め私見トシテ(一)蘇側トシテハ既ニ借区料ニ相当スルモノヲ取得シ居レルコト(二)中山等ノ如キ楽屋裏ニ活動スル徒等アリトスルモ蘇側トシテハ之等ノ為借区料ヲ高メントスル意思ナキコト(三)経営者トシテハ日魯ノ外ナカルヘキコト

日本側ノ希望者ヨリモ高価ニテ経営方申出テタル場合ニ於テノミ問題起ルニ過キスト考フル旨答ヘタリ

六、大要前記ノ通ナルカ右ニテ御推察アルヘキ通中山等ノ妄動ノ為茲ニ一大支障ヲ来セルハ甚タ遺憾至極ナリ就テハ一ノ末段ニ関シ宇田ニ付御聞質ノ上結果御回電アルト共ニ中山等ノ行動ニ対シ政府ニ於テ如何ナル措置ヲ執ララル次第ナリヤ併セテ至急御回電アリタク「カ」ハ明土曜モ明後日曜日モ郊外ニ出テス何時ニテモ会见シ本件ノ解決ニ努ムヘキヲ約シ居レリ

七、前記(六)ノ御回電ヲ俟チ蘇側ト会谈シ卑見上申スヘキモ中山等カ既ニ前記一ノ如キ電請ヲ為シ居レル以上ハ此ノ際日魯ヲシテ宇田拋棄漁区ノ経営ヲ希望スル旨至急漁業庁へ電請セシメラルト共ニ右浦潮長尾又ハ長崎(日魯代表)ヲ哈府ニ急派シ漁業庁ト商議ヲ試マシメラルコト喫急事ト存ス

212

昭和4年6月3日

田中外務大臣ヨリ
在ワラジオストック小柳総領事代理宛
(電報)

宇田競落漁区の日魯への譲渡につきソ連側と

交渉について

トト思考スル旨述ヘタルカ本官カ右ノ旨政府ニ報告シ可ナルヤト問ヒタルニ対シ言葉ヲ濁ラシ漁業庁トシテハ成ルヘク有利ナル条件ヲ提供スル経営希望者ニ貸下クヘキコトトナルハ当然ノ道理ナラスヤト応酬シ遂ニ確カナル言質ヲ与フルニ至ラス

四、前記二ノ末段公文ノ字句ニ付本官ヨリ(イ)日本政府ノ推薦スルモノニ貸下ケラレタシトスル案(ロ)昨年度経営シ労働者等準備セルモノニ貸下ケラレタシトスル案(ハ)實際経営セントスルモノニ貸下ケラレタシトスル案等ニ付懇談ヲ試ミタルニ「カズ」ハ本官カスル言ヲ為スハ中山関係ヲ避ケントスル意図ニ出ツルモノト看取セルモノノ如ク結局蘇側カ貸下ケ規則第四十一条ニ依リテ貸下クルモノナルニ付右何レノ案ニ日本側カ依ラルルトモ之ニ拘束ヲ受クルコトトナラサルヘク右ハ関係漁区ヲ再競売ニ付スル場合ニ於テモ同一ナリトノ趣旨ヲ以テ応酬セリ

五、七十八漁区中「コオペラチーブ」関係漁区ニ付テハ貴電第一六一号御回訓ノ一ニ依リ可然説明ヲ為シタル処「カズ」ハ兎ニ角布度数ニ付取調ヲ為スヘキモ本件ハ左シテ面倒ナル問題ニアラサルヘク「コオペラチーブ」カ

付記

昭和四年五月二十八日付

日魯漁業会社・島徳蔵間覚書

本省 6月3日後発

第九七号

宇田カ五月三十日其ノ競落漁区ヲ完全ニ放棄シタルコトハ前電ノ通りナルカ大阪側中山説太郎、西川末吉ノ兩名ハ漁業庁ニ対シ宇田ト同一条件ニテ右漁区ヲ引受ケ度シト申込ミ居レリ就テハ貴下ハ直チニ哈府へ出張ノ上日魯カ日本政府ノ推選ヲ有スルコト並従前ノ経営者タル点ヨリシテ正当ノ条件ヲ以テ之ヲ引受ク可キコトヲ交渉セラレ度シ尤モ本件ハ政府ニ於テモ中央ト交渉中ニテ蘇側モ原則的ニハ日本側ノ経営ニ委スル意向ナレハ漁期ヲ逸セサル様七十八ヶ所中左記ノ漁区ヲ除キ交渉ヲ進メラレ度シ

租借ヲ希望セサル漁区

巷〇五ア 九八ベ 九八ウエ 九八一 一三〇ア 一三〇デ 二四五イ 二四五カ

尚貴電二九号ノ件ハ政府ヨリモ延期方御交渉ヲ願ヒタレト貴方ハ不取敢前同様ノ意味ニテ重ネテ延期方申込み置カルヘシ

(付記)

覚書

(昭和四年五月二十八日午後十一時)

男爵郷誠之助、杉山茂丸両氏ノ仲裁ニヨリ露領漁区解決ノ為メ日魯漁業株式会社ヲ甲トシ島徳蔵、宇田貫一郎、西川末吉及中山説太郎ヲ乙トシテ覚書ヲ作製シ各自尙通ヲ保有ス

(一) 宇田氏ノ獲得セル漁区ヲ放棄シ日魯会社ノ経営トナスコト

(二) 甲ハ乙カ極東銀行ヨリ借用セル露貨三百五十万留ヲ本年八月十八日迄ニ左記条項ニヨリ乙ニ貸付クルモノトス

(イ) 甲ハ本年六月三日迄ニ露貨百五十万留ヲ乙ニ貸付ケ乙ハ上記露貨ヲ極東銀行ニ支払ヒ乙ヨリ極東銀行神戸支店ニ担保物件トシテ提供セル現金九十万円及宇田振出手形合計八十四万九千円也ハ乙ノ所得トス

(ロ) 甲ハ本年八月拾八日迄ニ露貨二百萬留ヲ乙ニ貸付ケ乙ハ上記金額ヲ極東銀行ニ支払フモノトス乙ハ乙ノ極東銀行神戸支店ニ提供セル担保物件ハ乙ノ所得トス但シ甲カ右期日迄ニ露貨二百萬留ヲ乙ニ貸付クルコト不能

但シ左記口頭ニテ話アリ之ヲ条件トシテ承諾シタルモノナリ

(一) 正式契約ノ際ハ主旨ヲ乱ササル限リ其ノ字句其ノ他更ニ協議スルコト

(二) 提案中(ロ)ノ別記覚書ハ二十九日ニ提示スル打合せナルモ金額ハ百万円ヲ超過セストノ窪井氏ノ説明ナリ

(三) 重役ハ栖原角兵衛、西川ノ両氏ヲ入ルルコト但シ西川ニ付テハ郷、杉山両氏カ其ノ行動ニツキ保証ヲナシ且ツ一応会社側ヨリ三菱・セール両社ノ合意ヲ求メ万一承諾ヲ得サル場合ハ郷氏ヨリ両社ニ懇談スルコト

213

昭和4年6月4日 吉田外務次官 在本邦ソ連邦大使 会谈

宇田漁区問題解決に関する吉田次官よりトク

ヤノフスキー大使への申入れ

吉田次官ヨリトロヤノフスキー大使ニ対スル申入事項

一、大臣ニ面会ヲ求メラレタルモ御都合悪キ為代ツテ面接スル次第ナルニ付先ツ御用件ヲ承リ度シ

二、宇田競落漁区問題ニ関シ日本政府トシテハモスコイ当

ノ場合ニハ甲ハ露貨一留ヲ邦貨六十銭ノ割ニテ金百二十万円也ヲ乙ニ貸付クルモノトス

(三) 乙ハ右借入金ニ対シ連帯責任ヲ以テ甲ニ右金額借用証ヲ差入ルルコト但シ右借入金ニ対シテハ年五分ノ利息ヲ付シ乙ハ後記第五条記載ノ利益金ヨリ五ヶ年賦払ヲ以テ返還スルモノトス

(四) 乙カ漁区ヲ放棄スルモ露国政府ニ於テ之ヲ承認セサル為宇田氏ノ権利トシテ存続スル場合ニハ乙ハ借入金ヲ甲ニ即時返還スルモノトス

(五) 甲ハ乙カ漁区経営ニ関シ準備ニ要シタル諸経費ハ甲乙協定ノ別記覚書ノ金額ヲ基準トシ将来甲カ該七十八ヶ所漁区経営ニヨリ得タル純利益中ヨリ順次之ヲ乙ニ支払フモノトス之ノ場合ノ純利益トハ総収入金ヨリ漁区経営ニ要スル運転資金ノ利息(年八朱)及総支出金ヲ控除シタル純利益ヲ云フ

(六) 取締役一名監査役一名ヲ郷男爵、杉山茂丸両氏ヨリ甲ニ推薦スルコト

(七) (五)ノ二項ハ漁区カ完全ニ甲ニ復帰セサル場合ハ其ノ効力ヲ生セサルモノトス

局並ニ貴大使ノ好意的措置ニ期待シ居リタルモ中山、西川兩人カ二十九日在京蘇連邦領事館經由ハバロフスクヘ宇田ノ漁区継承方電報シテ以来貴方ニ於テハ国内法上研究ヲ要シ惹テ右申出ヲ無視スルニ於テハ蘇連邦当局相手ノ訴訟若ハ同人等及ヒ宇田間ノ訴訟問題ヲ生シ結局蘇側トシテ賠償ノ責任ヲ生スヘキ恐レアル趣ヲ以テ遽カニ兩國政府間ノ交渉停頓スルニ至レリ斯クテハ本年ノ漁期ヲ逸失シ多大ノ期待ヲ繋キ居リタル日本政府ノ失望ハ固ヨリ日本朝野ノ注意ヲ集メ居リタル關係上輿論ノ不満足ヲ招来シ兩國ノ親善上不愉快ナル事態ヲ発生スル恐レアルコトトナレリ右ハ本官ノ甚々遺憾トスル所ナリ

三、我方ノ見解ニテハ本件ハ区々タル法律問題ニ非サルモ仮リニ法律問題トシテ之ヲ見ルモ

(A) 中山、西川カ五月十七日付抗議文ヲ宇田宛發送シタルハ事実ナルモ右ハ単ニ(一)漁区ノ實際権利者ハ中山、西川外一名ナルコト(二)從テ宇田カ漁区權利ノ放棄ヲナスヲ認メサルコトヲ内容証明ノ郵便ニテ一方的ニ通告シタモノニ過キス

(B) 所謂宇田対中山、西川ノ契約文書内容ハ貴大使ノ御承

知ノ通りニシテ右契約ハ宇田自身何等関知セス兎島カ
宇田ノ在神戸蘇連邦総領事館ニ於テ作成セル全権委任
状ヲ濫用シ宇田ノ名ニ於テ作成シタルモノナリ
(C) 中山及ヒ西川ハ五月二十八日兎島及ヒ宇田ト共ニ日魯
トノ妥協覚書ヲ承認シ居リテ其後ニ於テ斯クノ如キ策
動ヲ為シ得サル義理合ニアリ

(D) モスコウ当局ノ説明ニ依レハ中山及ヒ西川ハ宇田ノ協
同借区者ナルカ故ニ取扱困難トナレル趣ナルカ共同借
区者ハ貸付条件第十七条ニ依リ文書ヲ以テ漁業庁ノ許
可ヲ要スル次第ニシテ其ノ許可ナキ共同借区者ヲ招致
スル場合ニハ借区契約ノ破棄ヲ免ヌカレス(貸付条件
第十八条)故ニ漁業庁ニ於テ宇田ノ契約解除ノ申請ニ
応シ契約ヲ破棄セラルルモ何等ノ煩ヒナキ次第ナリ
(二) 要スルニ兩國政府ニ於テ嘗テ認メザリシ中山、西川ノ如
キ裏面ノ人物ノ言動ニ一々耳ヲカシ郵送中ノ契約書到達
ヲ待ツ等徒ラニ時日ヲ遷延セシムルハ漁期切迫ノ此際問
題ノ解決ヲ一層困難ナラシムルモノニシテ不愉快ナル紛
糾ヲ惹起スルノ恐レナキニアラス中山一派ニ対スル措置
ハ目下夫々筋道ヲ辿リテ方途ヲ講シツアルモ蘇側トシ

御諒承アル貴大使館ニ於テ中山、西川ノ輩ノ申出ニ対シ
便宜ヲ供セラルルカ如キハ日本政府トシテ甚タ遺憾ナル
コトナリ将来本件ニ関スル限り願出人ヲシテ外務省經由
手続ヲセシムル様致度シ又以上述べタル所ニ依リ中山ノ
申出ハ理由ナキモノト認メラルルコト考フルモ必要ア
ラハ日本政府トシテハ本件申出ヲ無視セラルルコトニヨ
リ蘇側当局ニ迷惑ヲ掛ケサル趣旨ノ保障ヲナスモ可ナリ
就テハ此際右ノ事態ヲ至急本國政府ニ御伝達ノ上本件急
速解決方御配慮ヲ得度シ

(昭和四年六月四日 菅書記官口述)

214 昭和4年6月5日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

宇田競落漁区の日魯への譲渡に関するカズロ
フスキーとの会談について

モスクワ 6月5日前発
本省 6月6日前着

第二五二号
貴電第一八八号ニ関シ

四日「カズロフスキー」ト長時間ニ亘リ会談セリ

テハ飽迄モ日本政府ノ言説ニ重キヲ置カレ右兩人ノ申出
ヲ無視セラルル様致度シ

(B) 蘇側トシテ日本政府推薦ノ日魯会社ニ対シ好意ヲ有セラ
レサル趣ナルモ之ヲ推薦スル日本政府ト混同セラレサル
様致度シ

(四) 今朝来電ノハバロフスク電報ニ依レハ同地機関紙ハ中山
一派ニ同情セルカ如キモ同人等ハ何等漁区経営ノ準備モ
ナク仮リニ借区権ノ譲渡ヲ受クルモ結局漁区不経営若ハ
後半借区料不払ト云フカ如キ紛議ヲ惹起スルニ過キサ
ルモノト思考ス

(四) 政府ノ方針ハ三十一日申入タル通り(a)宇田カ契約ノ当事
者タルコトハ代理人ノ何人タルヲ問ハス明瞭ニシテ宇田
ニ於テ契約執行ヲ希望スル以上外務省ハ宇田ノ希望ヲ支
持ス(b)宇田ト中山、西川トノ間ニ如何ナル私的契約アル
モ其ノ解決ハ日本国内ノ裁判所ニ於テ審判セラルヘキモ
ノニシテ外国トノ關係ヲ生スヘキ事由ナシ(c)中山、西川
ヨリ宇田契約ノ漁区ニ関シ何等申出アルモノヲ無視セラ
レタシ

(六) 特ニ貴大使ニ考慮ヲ求メタキハ右ノ日本政府方針ヲ篤ト

甲、係官ヨリ中山及西川カ漁業庁ニ為セル抗議書及所謂契
約文ナルモノノ内容ヲ告ケ貴電第一八八号ノ三ニ付テモ
説明ヲ為シ同貴電四ノ趣旨ニ依リ此ノ際至急宇田契約ノ
失効ヲ確定シ第二番札ヲ入レタル日魯ニ關係漁区ノ貸下
方取計ハレタキ旨篤ト交渉セル処「カ」ハ右本官ノ申出
ヲ俟ツ迄モ無ク数日來日本側ノ要望ニ接シ得ル様考慮中
ニシテ貸付条件第十七条及第十八条ノ如キニ付テハ既ニ
氣付キ居リ極東官憲ニモ電照中ナルカ宇田契約ノ内容ニ
依リテハ同契約ノ失効ヲ認ムルモ将来蘇側ニ累ヲ及ホサ
サルヘントノ本官意見ニ付テモ賛成者アル次第ニ付茲三
日中ニハ何分ノ決定ヲ見ルヘキモノト認ム就テハ日本人
ノ希望者ヨリ至急具体的ニ漁区名ヲ指摘シテ特別貸下方
漁業庁ニ電請セシメラルト共ニ本官ヨリ外務部ニテ宇
田放棄漁区ニ付テハ貸下規則第四十一条ニ依リ本年一年
限り日本人ノ希望者ニ貸下ケラレタシトノ趣旨ヲ交換公
文トスル形式ニテ申出テ置カレタシト述ヘタルニ依リ本
官ハ日本側要望ノ要点ハ第二番札ヲ入レタル日魯ニ貸付
ケラレタシト云フニ在リ從テ公文ニモ右ノ旨明記スヘク
又日魯ヨリハ既ニ三日中ニ必要ノ電請ヲ為セル筈ナリト

- 述へ蘇側ニテハ日魯ノ立場ニ付誤解ヲ有シ本官是迄ノ説明ニ拘ラス尚釈然タラサルモノアルカ如キコト並極東機関紙ノ論調ヲ引キテ斯ル記事ハ日本側ニ甚タ面白カラサル感觸ヲ与フルコト等ヲ説キ前記要望ヲ繰返シ力説セル処「カ」ハ内部ニテ協議セル結果如何ニ一年限りノ弁法ナリトスルモ亦如何ニ日本側ヨリ要望アリトスルモ農務部ヨリ日魯ニ貸下クヘシト云フカ如キ命令ヲ漁業庁ハ発スルコトハ到底困難ナリトノコトニ決定シ居リ右ハ断シテ日魯ヲ毛嫌スル次第ニ非スシテ日本人希望者中有利ナル条件ヲ提供スル者ニ貸下ケルヨリ外無キ次第ナリ此ノ点ハ日本側ニ於テモ蘇側ノ立場ニ代リテ考慮セラレ蘇側立場ヲ諒トセラレタシト答へ本官カ然ラハ中山ノ申請アル以上日本側ノ要望ノ要点ハ達成セラレサルコトトナルヘシトノ趣旨ナルヤト反問セルニ「カ」ハ遺憾乍ラ然リト答へサルヲ得スト述へ更ニ以上ハ係官トシテノ言ナリト断リ次テ乙ノ趣旨ヲ述へタリ
- 乙(2) 中山問題突発以來種々考慮ヲ運ラシ来レルカ之ヨリ全ク個人的友人トシテ自分ノ私見ヲ述フヘク参考トナラハ幸ナリ
- (イ) 日魯ハ宇田ニ保証金ヲ支払ヒタル以外ニ蘇側ニ対シ七十八漁区ニ付協定セラレタル借区料ヲ支払ハサルヘカラス
- (ロ) 日魯ハ工場漁区ニ付テハ七十八漁区ニ対スル協定如何ニ拘ラス宇田借区料ヲ標準トセル借区料(普通報償金)ヲ支払ハサルヘカラス此ノ点ハ議定書丙第八ノ解釈ナルカ蘇側法律家ハ以上ノ如キ意見ナリ
- (ハ) 関係漁区ハ来年度競売ニ付セラレヘク其ノ最低価格ハ第一次ニ於テハ宇田借区料カ標準トナルモ此ノ点ハ蘇側ニテモ考慮スルコトトナルヘシ
- (ニ) 然ルニ今
- (イ) 宇田契約ヲ有効ニ存続セシメ置クコト
- (ロ) 宇田契約ハ宇田名義ノ儘日魯ニ経営セシムルコト
- (日魯カ反蘇の意見ニアラサルコトヲ此ノ上其ノ適当ノ方法ヲ以テ説明シ今後蘇側ノ反感ヲ買フカ如キ言動ニ出テサルモノトセハ以上ノ如ク日魯カ関係漁区ヲ事実上経営スルコトトナルモ蘇側ニテ決シテ反對セサルヘキヲ信ス)
- (ハ) 宇田ハ漁期終了ヲ俟チ始メテ蘇側ニ対シ契約ノ解除

- (二) 之迄貴官トノ会談ニ依リ日本側ノ希望セラルル処ハ左ノ趣旨ニ帰スルモノト諒解ス(イ) 宇田借区料ハ高値ニ過ク之ヲ標準トスル時ハ本年度工場漁区ノ借区料ニ影響シ又他ノ漁区ノ経営モ困難トナルニ付此ノ際宇田契約ヲ失効セシメ宇田借区料ヨリ安キ借区料ヲ協定シ度シ
- (ロ) 関係漁区ハ之ヲ日魯漁業ニ経営セシメ度シ
- (三) 今ヤ宇田契約ノ失効確定シ且中山カ宇田契約ト同一条件ヲ以テ関係漁区ノ貸下ヲ受ケ度シトノ申出ヲ取消ササル限り蘇側トシテハ中山ニ関係漁区ヲ貸下ケサルヲ得サルヘク從テ日本側ノ希望カ達セラレサルハ勿論ナリ
- (四) 宇田契約失効ノ場合関係漁区ハ貸下規則第四十一条ニ依リ本年一年限り貸下ケラレ来年度ハ競売ニ付セラレヘシ即チ来年以後ノ借区料ハ来年度ノ競売ニ依リテ決定セラル
- (五) 宇田契約カ失効シ関係漁区カ日本人ノ或ルモノ例ヘハ日魯ニ貸下ケラレ而シテ其ノ借区料カ日魯入札価格ノ一割増トシテ協定セラレタリト仮定スル場合即チ日本側ノ要望通りニ解決セル場合ニ付考フルニ

- ヲ申請スルコト其ノ理由ハ本年自ラ経営セサリシハ借区料高キニ過キ自ラ経営セハ多大ノ損害ヲ受クヘキコト明カナリシ為ナリ来年以後モ同様ニ付契約ノ解除ヲ望ム次第ナリ云々トス
- ノ如キ案ニ依ルトセハ
- (イ) 宇田ハ損益ナシ
- (ロ) 中山等ノ申請如何ニ拘ラス日魯ハ関係漁区ノ経営ニ直ニ着手シ得ヘシ
- (ハ) 日魯ハ関係漁区ニ対シ本年度借区料ヲ支払フ要ナシ唯保証金ニ相当スルモノヲ納付スレハ足ル
- (ニ) 工場漁区ニ付日魯ハ宇田借区料ヲ基準トセルモノヲ支払ハサルヘカラス右ハ宇田契約失効ノ場合ニ於テモ同様ナルハ前記ノ通ナリ
- (イ) 来年度競売ノ点モ宇田契約失効ノ場合ト同様ナリ
- (ロ) 今前記五ノ場合ト六ノ案トヲ比較スルニ後者ノ方日魯ハ其ノ支払フヘキ金額カ少カルヘキニ拘ラス中山等ノ申請如何ヲ問ハス直ニ関係漁区ノ経営ニ着手シ得ヘク而モ五ノ場合ニ於テ達シ得ヘキ目的ハ總テ同様ニ達セラルルカ如シ

即チ六ノ案ハ蘇側ニ取リテハ收入上不利ナルモ日本側ニハ五ノ場合ノ主張ヨリモ遙カニ有利ナリト考フ自分ハ何故日本側カ六ノ案ニ依ラサリシヲ疑ヒテ已マス此ノ案ナラハ此ノ際日本側ニテ何ノ不安モナカルヘク中山トノ關係ノ如キハ来年度競売ニテ始メテ問題トナルヘキカ尙充分時日モアルコト故其ノ間ニ於テ適當ノ方策ヲ講セラルレハ可ナラム

(六)以上ハ蘇側ニ取リテ不利ナルモノナルニモ鑑ミ自分カスカル案ヲ申出タリトノコトハ他ノ蘇側ノモノニ告ケラレサラムコトヲ望ム

215

昭和4年6月6日

田中外交大臣
在本邦ソ連邦大使

會談

宇田問題および日露協會會長問題等に関する

會談

大臣會見録(九十七)

六月六日午前十一時露国大使トロヤノフスキー氏田中大臣ヲ來訪ス大臣ヨリ本年ノ夏ハ何レニ避暑セラルル積リナリヤヲ尋ネラレタルニ大使ハ漁業ノ問題サヘ片付ケハ本年ハ莫斯科ニ夏ヲ過シ度シト考ヘ居レリト答ヘ

スヘキ事態起ラストモ限ラサルモ之ハ後日即チ来年ノ出漁期迄ニ決定セハ足ルコトニシテ差当リニ於テハ臨時ノ措置ヲ講シテ本年ノ出漁ヲ実行スルコト肝要ナリト答ヘ

大臣ハ之ニ對シ御考ヘヲ聞キ自分モ安心セリ元來彼等當業者ノ間ニハ色々ノ込入りタル事情アリ又経緯アルヘキモ政府トシテハ之ニ捲キ込マレサルコト最モ肝要ニシテ之等事情ニ超越シテ急キ合理的解決ヲ得ルコト必要ナリ貴大使ニ於テモ此等當業者ヨリ色々ノ申出アリテ五月蠅コトナランモ斯クノ如キハ全ク私ノ申出ナルヲ以テ決シテ之ヲ取上ケ

テ之ニ依ツテ措置セラレサランコトヲ望ム而シテ何卒外務省ノ申出ノミニ信頼シテ何処迄モ合法的解決ヲ促進セラレシコトヲ望ム當業者ノ込入りタル事情ニ付テハ別ニ後日国内問題トシテ之ヲ解決スヘク其ノ結果又政府トシテ貴国政府ニ申入ヲ為ス必要ノ生スルコトモアラン或ハ生セサルヤモ知レス何レニシテモ之ハ国内的ニ解決スヘキモノニシテ而シテ之ヲ解決ノ上ハ将来又斯カル不愉快ナルコトヲ繰返ササル様自分ハ篤ト彼等ニ戒飭ヲ加フル積リナリト述ヘラレタリ

右ニ付更ニ大使ハ閣下ハ国内問題ナリト言ハルルモ事業ハ

大臣ハ其ノ漁業問題ニ就テハ種々御尽力ニ与リ有難シ唯當面ノ問題ニ付テハ各方面ヨリ個人ノ意見種々申出アルヘキモ露西亜側トシテハ日本政府ノ所言ニノミ信頼セラレ度ク之ヲ基礎トシテ差当リノ問題ヲ解決スルコト急務ナリ個人ノ立場等ニ付キ或ハ後日解決ヲ要スヘキコトモアルヘキモ此等ハ国内問題トシテ政府ト此等個人トノ間ニ決定スヘキモノナリ兎モ角目下ノ急務ハ問題ヲ急速解決シテ漁期ヲ逸セサランコトナリト云ハレタル処

大使ハ初メハ島一派ト日魯漁業トノ争ヒナリシカ兩者ノ間ニ協定出来タリト思ヒ居レル矢先又西川一派ト日魯漁業トノ争ヒトナレルカ如ク露西亜側トシテハ之等利害ヲ異ニセル各種個人若ハ団体ノ何レカ法律的基础アル言分ナリヤヲ判定スルニ困難シ居レリ目下莫斯科ニテハ極東漁業庁ヨリ廻付セラレタル西川等ノ申出ニ就キ之ヲ研究セシメツツアル趣ナルカ自分ノ考フル所ニテハ其ノ研究ノ結果ハ別トシ本年ノ差シ迫レル漁期ヲ逸セサル様臨時的ニモ問題ヲ解決スルコト必要ト信スル次第ニシテ此ノ趣旨ニ於テ閣下ノ只今ノ御言葉ニハ全然賛成ナリ若シ西川等ノ申出ニ付裁判所ニテ彼等ニ権利アリトノ決定ヲ得タル時ハ茲ニ新タニ考量

露国領土及領水ニテ行ハルルモノナルヲ以テ自然露国法律ニモ触ルル所アリ從テ露国トシテモ之ヲ法律問題トシテ研究スル必要アリ其ノ結果(一)西川等ノ権利カ確立セラルレハ之ヲ考量シテ差当リ執ルヘキ臨時ノ解決措置弁法ニ對シ將來改訂ヲ加フル必要ヲ生スルコトモアラン(二)又權利無シト確定セハ新ニ競売ヲ行フ必要ヲ生スルコトモアラン自分ハ今此ノ二ツノ場合ヲ予想シ居ル次第ナルカ之ハ後日ノ問題ニシテ御言葉ノ通り差当リ合理的ノ弁法ヲ講スヘキコトニ付テハ自分モ其ノ促進方尽カスヘシト述ヘ

大臣ハ御言葉誠ニ有難シト述ヘラレタリ

次ニ大臣ハ日露協會ノ會長問題ニ付キ本日同會役員會ニ於テ齋藤子爵ヲ選出スルコトニ話合ヒ付キ誠ニ喜ヒ居ル次第ナリト述ヘラレ大臣ハ自分モ齋藤子爵ノ最モ適任ナルコトヲ信シ甚タ喜ヒ居レリト答ヘタルカ

更ニ大臣ハ自分ハ先日モ總裁閣院宮殿下ニ御目ニカカリタル際申上ケタルコトナルカ現在日本ニモ日英日米其他多數ノ協會存在シ居ルモ日露協會程各方面ニ活動シツツアル協會ハナシト信シ居レリ今後共日露兩國々交増進ノ為政府ニ於テ努力スヘキハ勿論政府ヲ側面ヨリ援助スル意味ニ於テ

同協会ヲシテ益々活動セシムルコト必要ニシテ自分ハ此ノ趣旨ニ於テ陰々同協会ノ為尽シ度シト考ヘ居レリト述ヘラレタル後序テナカラ一体莫斯科ニハ斯克ノ如キ協会存在シ居レリヤト尋ネラレタルニ

大使ハ不幸ニシテ今日ノ処スル協会莫斯科ニハ存在セス自分モ其ノ必要ヲ認メ居ルニ依リ創立ノ為折角尽力スルコトト致スヘク日露協会ニ対スル閣下ノ只今ノ御言葉ハ誠ニ感謝ニ堪ヘスト述ヘテ辞去シタリ

(昭和四年六月七日 澤田電信課長口述)

216 昭和4年6月14日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

ソ連漁業庁長官より宇田貫一郎宛失効確認の旨通報について

別電 昭和四年六月十四日付田中外務大臣より在ソ連

邦酒匂臨時代理大使宛第二〇九号

宇田契約解除願書受理について

本省 6月14日後発

第二〇八号
貴電第二七四号ニ関シ

破棄ニ依テ生スルトコロノ損害ヲ貴方ニ請求スル権利ヲ留保ス

六月十三日

長官 ゴロフスコイ

217 昭和4年6月18日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛(電報)

宇田漁区問題解決について

本省 6月18日後発

第二一二号

十八日日魯ヘノ入電ニ依レハ借区料百三十五万留ニテ宇田ノ漁区(日魯ニ於テ経営ヲ希望セサル八ヶ所ヲ除ク)引継問題解決シ漁業庁ヨリ在函館並小樽領事館及現場官吏ヘ日魯ノ出漁許可方電報シタル趣ナリ

218 昭和4年6月19日 在ハバロフスク山口総領事より
田中外務大臣宛(電報)

租借協定書に調印終了について

ハバロフスク 6月19日後発

本省 6月20日前着

第一三三三号

近江ヨリ日魯ヘ

本日漁業庁ニ於テ七十漁区租借協定書ノ調印ニ当リ「宇田

(一)漁業長官「ゴロフスコイ」ヨリ十三日付ヲ以テ別電第二〇九号ノ通在大阪宇田宛契約ノ失効確認方電報アリタリ

(二)「ハバロフスク」来電第一二五号ニ依レハ極東官憲ハ今尚ホ区々タル手続問題ニ藉ロシ故意ニ本件解決ヲ遅延セシムトノ下心ヲ有スルヤニ認メラルルニ付此上トモ可然貴地中央当局ヲ通シ地方官憲ノ手続進捗方御配慮アリタク殊ニ工場漁区租借料ニ関シテハ「ハバロフスク」来電第一二四号ノ次第モアルニ付此際中央ヨリ本年度租借料ノ決定ハ後日両国政府間ニ於テ商議スヘキニ付夫迄ハ日魯ヲシテ予納金額ニ相当スル金額ヲ更ニ供託セシムルニ止メ漁業庁所定ノ租借料納入方ハ一時延期スヘキ旨極東宛電訓セシメラレ發電ノ際ハ其旨当方並「ハバロフスク」へ電報アリ度シ

本電別電ト共ニ哈府へ転電セリ

(別電)

本省 6月14日後発

第二〇九号

四月十九日付借区契約シタル七十八ヶ所ノ漁区及蟹漁区ノ契約実行ヲ拒絶スル貴方ノ申請ヲ許可ス其ノ為漁区ノ契約

漁区契約ノ解除及貸下法ニ依ル譲渡ニ関連シ第三者ヨリ漁業庁ニ対シ合法的抗議ヲ為シ之カ為漁業庁カ損害ヲ被リタル時ハ会社ハ其ノ損害並ニ問題解決ノ責ヲ負フヘシトノ文句記載シアリ甚タ不当ナルモノトシテ嚴重抗議ヲ申込ミタルニ右ハ中山等ヲ指スモノナルモ之トテモ現ニ漁業庁ヨリ正式ニ拒絶シアルヲ以テ絶対ニ問題モ起ラサルヘク単ニ協定書ノ形式ナル故重視スルニ及ハサルヘシト説明シ右形式ヲ具備セサレハ調印不可能ト主張シテ応セス又租借料ノ総括的取極ニ関シテハ我先電「ゴ」氏主張通手続上ヨリ之ヲ絶対ニ容レストシ各漁区ニ振分け其ノ割当ハ大体当社入札ノ価格ニ按分シタルモ一部即チ工場付近漁区ニ対シテハ相当加減セラレタル処モアリタリ之ニ対シテモ訂正方ヲ要求シタルカ絶対ニ応セス不満ナレハ協定ヲ取消スモ差支ナシト言明シ此ノ種問題ノ為再ヒ協定不成立ニ至ラントシタルカ山口総領事ノ御意見ヲモ伺ヒタル上機宜ノ処置トシテ午後三時半迄ニ協定書ノ調印ヲ了セリ詳細ハ明日右協定書写取付ケ次第報道スル

莫斯科へ転電セリ